小山松壽

愛知縣第一區選出、立憲民政黨
正五位勳三等、新聞社員

明治九年一月長野縣北佐久郡小諸町ニ生ル、早稻田大學法科卒業○大阪朝日新聞記者タリ、又名古屋新聞ヲ創刊シ其社長トナル、名古屋市會議員ニ選ハル、軍需評議會評議員、都市計畫中央委員會委員被仰付、農林政務次官ニ被任、鐵道會議臨時議員、米穀委員會委員、關稅調査委員會委員、小作調査會委員、人口食糧問題調査委員會委員、關稅審議會委員、米穀調査會委員被仰付、南洋方面ヲ視察ス○衆ニ衆議院副議長タリ○當選九回（12 13 14 15 16 17 18 19 20）

小山亮

長野縣第二區選出、第二控室
甲種船長

明治二十八年二月東京市ニ生ル、愛媛縣立弓削商船學校航海科卒業○甲種一等運轉士試驗竝甲種船長試驗ニ合格ス、山下汽船株式會社武州丸ニ乘組ミ伊太利海軍御用船トシテ歐洲大戰ニ參加ス、國際汽船株式會社ニ入社、世界周航、歐洲航路、大西洋航路、北米、南米、地中海、北支、濠洲、印度、北洋各航路ニ就航ス、小諸町會議員タリ、民衆新聞ヲ主宰ス○當選二回（19 20）

小見山七十五郎

熊本縣第二區選出、立憲政友會
農

明治十八年六月熊本縣天草郡早浦村ニ生ル、長崎高等商業學校卒業○天草郡會議員、熊本縣會議員ニ選ハレ、同縣會議長ニ擧ケラル、熊本縣水產會長タリ○當選一回（20）

木暮武太夫

群馬縣第二區選出、立憲政友會
勳四等、官吏

明治二十六年二月群馬縣群馬郡伊香保町ニ生ル、慶應義塾大學理財科卒業○株式會社三井銀行員タリ、又國勢調査員、伊香保町會議員、伊香保鐵泉場組合取締所組合長ニ擧ケラル、國產振興委員會委員、關稅調査委員會委員被仰付、伊香保溫泉自動車株式會社取締役、伊香保ケーブル鐵道株式會社取締役、社團法人日本溫泉協會本部理事タリ、現ニ商工政務次官タリ、重要肥料業委員會、統制委員會各委員被仰付、中華民國及滿洲國ヲ視察ス○當選六回（15 16 17 18 19 20）

木檜三四郎

群馬縣第二區選出、立憲民政黨
勳四等、農

明治元年八月群馬縣吾妻郡岩島村ニ生ル、早稻田大學政治科卒業○群馬縣會議員ニ當選、更ニ郡會議員、同議長、町長ニ擧ケラル、又群馬縣農工銀行監査役、原町銀行取締役及日刊上野日日新聞社長トナル、鐵道會議々員、簡易生命保險積立金運用委員會委員被仰付、列國議會同盟會議及萬國議院商事會議ニ參列ス○當選七回（14 15 16 17 18 19 20）

紅露昭

德島縣第一區選出、立憲政友會
勳四等、辯護士

明治二十年十月德島縣那賀郡桑野村ニ生ル、法政大學及日本大學法律科卒業○辯護士試驗ニ合格ス、曩ニ稅務屬ニ任セラレ、永代橋、神田橋、四谷各稅務署勤務ヲ被命、後辯護士、辨理士ノ業務ニ從事ス、日本辯護士協會理事、日本大學評議員及維持員、日滿法書協會理事トナル、サンケエ株式會社取締役社長、法政大學評議員タリ○當選三回（18 19 20）

河野一郎

神奈川縣第三區選出、立憲政友會
從五位勳四等、會社員

明治三十一年六月神奈川縣足柄下郡豐川村ニ生ル、早稻田大學政治經濟科卒業○東京朝日新聞社員トナル、中郡畜産組合長、中央畜産會理事ニ擧ケラル、農林大臣祕書官ニ任セラル、東光商事株式會社監査役タリ○當選三回（18 19 20）

河野密

東京府第一區選出、社會大衆黨
辯護士

明治三十年十二月千葉縣夷隅郡中川村ニ生ル、東京帝國大學法學部獨法科卒業、著書「日本の勞働問題」及飜譯書數種アリ○東京朝日新聞記者、大阪朝日新聞記者、京都同志社大學講師トナル、日本勞働組合會議副議長ニ擧ケラル、又第二十回國際勞働會議日本勞働代表ニ推薦セラル○當選二回（1920）

駒井重次

東京府第二區選出、立憲民政黨
從五位勳四等、計理士

明治二十八年二月東京市ニ生ル、東京帝國大學經濟學部商業學科卒業○文官高等試驗ニ合格、大藏屬、司稅官、銀行檢查官ニ歷任シ、前橋、龜戶、神田橋各稅務署長ニ被補、前橋、龜戶、神田橋各稅務署管內相續稅審查委員、群馬縣收用審查會委員ヲ命セラル、現ニ日本大學講師、計理士タリ○當選三回（1819 20）

江原三郎

栃木縣第一區選出、立憲政友會
辯護士

明治二十七年一月栃木縣下都賀郡絹村ニ生ル、東京帝國大學獨法科卒業○辯護士ヲ開業其業務ニ從事ス、曩ニ宇都宮辯護士會長ニ推サル、又宇都宮市會議員、同議長、栃木縣會議員ニ選ハル○當選一回（20）

江藤源九郎

奈良縣選出
從四位勳三等功四級

明治十二年二月東京市ニ生ル、陸軍士官學校卒業○陸軍步兵少尉ヨリ陸軍少將ニ歷任シ、依願豫備役ニ編入セラル、其間步兵第三十八聯隊、韓國駐劄隊、陸軍士官學校、後備步兵第三十八聯隊、步兵第五十三聯隊、參謀本部、關東都督府、臺灣步兵第一聯隊等ニ勤務シ、新發田聯隊區司令官、步兵第五十三聯隊長、同第三十八聯隊長及第六師團司令部附等ニ補セラル、日露戰役ニ從軍シ戰傷ヲ受クルコト三回奧第二軍司令官ヨリ感狀ヲ授與セラル、帝國傷痍軍人會々長トナル、現ニ大日本傷痍軍人會顧問タリ、馬來半島、ジヤバ、ボルネオ、滿洲、支那各地ヲ視察ス、曩ニ南洋視察ニ關スル御前講演ヲナス、選擧制度調查會委員被仰付○當選三回（1819 20）

江羅直三郎

京都府第一區選出、立憲政友會
會社員

明治八年十二月和歌山市ニ生ル、日蓮宗宮谷大學林、東洋大學卒業○京華日報社員トナル、五度京都市會議員、同府會議員ニ選ハレ、市部會議長、府會議長ニ擧ケラル、西陣着尺織物工業組合理事長タリ○當選一回（20）

手代木隆吉

北海道第四區選出、立憲民政黨
正五位勳四等、辯護士

明治十七年一月北海道有珠郡伊達町ニ生ル、中央大學法律科卒業○小學校長トナル、又司法官試補ヲ命セラル、後辭シテ辯護士トナリ、其業務ニ從事ス、又民政社常務理事、拓務參與官ニ任セラレ、阿片委員會委員、臺灣拓殖株式會社設立委員被仰付○當選五回(15 17 18 19 20)

寺田市正

鹿兒島縣第二區選出、立憲政友會
勳四等、農

明治九年四月鹿兒島縣薩摩郡東水引村ニ生ル、明治大學法科卒業○曩ニ時事新報記者、自由通信社副社長トナル、慰問ノ爲滿洲國ニ派遣セラル○當選六回(15 16 17 18 19 20)

寺島權藏

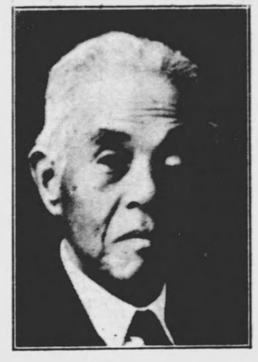
富山縣第一區選出、立憲民政黨
正五位、會社重役

明治二十一年一月富山縣下新川郡三日市町ニ生ル、早稻田大學政治科卒業「政局ト輿論」「歐洲外交ノ危機」ノ著書アリ○獨立通信記者、東京每日新聞社員トナル、三日市町長ニ重任スルコト五回、其間富山縣海外移民協會相談役、米穀商同業組合聯合會長、賣藥組合相談役、藁莚肥料商、米穀各同業組合長、都市計畫富山地方委員會委員被仰付、株式會社東新組、同富山日報社、同海底遊覽船會社各取締役、魚津製氷會社々長等トナル、商工參與官ニ任セラル、不當廉賣審查委員會、瓦斯事業委員會、國產振興委員會、度量衡制度調查會、統制委員會各委員被仰付、百貨店委員會、取引所制度調查會、臨時產業合理局小賣業改善調查委員會各委員ヲ命セラル○當選五回(15 16 17 19 20)

阿部茂夫

東京府第四區選出、社會大衆黨
教師

明治二十五年一月德島市ニ生ル、早稻田大學政治經濟專門部ニ學フ○德島縣名東郡沖洲、津田各尋常高等小學校訓導竝津田水產補習學校訓導ニ奉職ス、現ニ東京市會議員タリ○當選一回(20)



安部磯雄

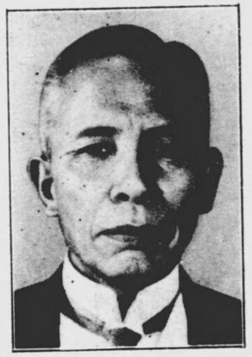
東京府第二區選出、社會大衆黨
勳四等、著述業

慶應元年二月福岡市ニ生ル、京都同志社卒業後米國ハートホード神學校卒業、伯林大學ニ學フ「社會問題解釋」「社會問題概論」其他數種ノ著アリ○京都同志社教師トナル、又東京專門學校教師、早稻田大學教授、同大學講師トナル、失業對策委員會委員、體育運動審議會委員、法制審議會臨時委員被仰付、社會事業調査會委員ヲ委囑セラル、現ニ東京市會議員タリ、臨時物價對策委員會委員ヲ囑託セラル○當選四回（16 18 19 20）

安倍寬

山口縣第一區選出
公吏

明治二十七年三月山口縣大津郡日置村ニ生ル、東京帝國大學法學部卒業○日置村長トナル、山口縣會議員、同參事會員、商事調停委員ニ選ハル、現ニ日置村長タリ○當選一回（20）



安達謙藏

熊本縣第一區選出、國民同盟
正三位勳一等

元治元年十月熊本市ニ生ル○韓國ニ於テ朝鮮時報社、又茨城新報社ヲ創立ス、外務省參政官、遞信大臣、內務大臣ニ任セラル、文政審議會委員、社會政策審議會委員、公私經濟緊縮委員會々長、社會事業調査會々長、衆議院議員選擧革正審議會副會長、臨時行政財政審議會委員、內閣審議會委員被仰付○永年在職議員トシテ院議表彰セラル○當選十四回（7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20）

安藤正純

東京府第三區選出、立憲政友會
正五位勳三等

明治九年九月東京市ニ生ル、東洋大學哲學科、早稻田大學政治科卒業後、外國語學校ニ學フ「數論の哲學」「政治と宗教との關係」「教育論叢」其他數種ノ著書アリ○東京朝日新聞編輯局長トナリ、又大阪東京兩朝日新聞株式會社重役ヲ兼任ス、東京大阪朝日ニ在社滿十八年、田中內閣ノ文部參與官、犬養內閣ノ文部政務次官ニ任セラル、文政審議會委員、宗教制度調査會委員、社會教育調査會委員、警保委員ヲ被仰付、教育關係ニテハ東洋大學講師、東京勞働學校長トナリ、嘗テ眞龍女學校ヲ創立シ其校長タリ、又淺草區會議長ニ擧ケラル、歐米各國竝支那ヲ視察ス○當選七回（14 15 16 17 18 19 20）

安藤孝三

愛知縣第二區選出
一等飛行機操縱士

明治三十一年五月愛知縣知多郡岡田町ニ生ル○大阪商船瓜哇丸水夫トナル、所澤飛行第四大隊ニ入隊ス、知多郡八幡町古見海岸水上飛行場ヲ開始シ、後同郡旭村新舞子飛行場ニ移轉ス、現ニ名古屋二見間定航飛行ニ從事シ、又和歌山新宮市間エアー・タキシーヲ開始ス、安藤飛行機研究所ヲ創設之カ所長トナリ、飛行機操縱士、航空機關士ノ養成、飛行術、機關學、飛行機修理等ヲ指導ス○當選一回(20)

愛野時一郎

佐賀縣第二區選出、立憲民政黨
正八位、會社重役

明治三十三年二月佐賀縣藤津郡鹿島村ニ生ル、中央大學本科卒業○陸軍輜重兵少尉ニ任セラル、橫濱興信銀行、鹿島村信用組合長、佐賀米穀取引所理事長トナル、又鹿島村長ニ就任現ニ其職ニ在リ、祐德自動車株式會社、肥前鹿島運送株式會社各社長タリ○當選二回(1920)

青山憲三

石川縣第二區選出、立憲政友會
勳四等、農

明治十二年九月石川縣鹿島郡中乃島村ニ生ル、和佛法律學校卒業○三等郵便局長ニ任セラル、縣會議員、同參事會員、地方森林會議員、石川縣水產聯合組合會長、鹿島郡水產組合長、帝國水產會議員、同副會長、石川縣水產會、鹿島郡水產會各特別議員、同各會長、石川縣出漁協會長、石川縣水產振興會長ニ選ハル、又鐵道省及農林省囑託タリ、曩ニ北陸漁業株式會社監査役、同取締役社長トナル、帝國水產會顧問タリ、石油業委員會委員被仰付○當選五回(15、16、17、18、20)

青木亮貫

滋賀縣選出、立憲民政黨
勳四等、醫

明治八年七月滋賀縣甲賀郡水口町ニ生ル、大阪府立高等醫學校卒業○大阪府立高等醫學校病理教室助手兼大阪病院醫員、日本赤十字社醫員、同救護員トシテ東京陸軍豫備病院附、東京陸軍豫備病院患者學術調査委員ヲ命セラル、後社團法人水口病院長トナリ今日ニ至ル、滋賀縣會議員、水口町長、滋賀縣畜產聯合組合長、甲賀郡自治協會長、同農會長、甲賀郡蠶業組合長ニ擧ケラル、甲賀郡町村營林組合管理者タリ、滿洲國ヲ視察ス○當選五回(17補、17、18、19、20)

青木作雄

山口縣第一區選出、東方會
正八位、貸家業

明治三十一年二月下關市ニ生ル、東京高等商業學校卒業後廣島高等工業學校ニ學フ○古川合名會社、株式會社百十銀行本店ニ奉職ス、陸軍三等主計ニ任セラル、下關市會議員、同參事會員、山口縣會議員、同參事會員、市學務委員、同上水道委員、同都市計畫委員、長崎町總代ニ選ハル、又山口縣都市計畫地方委員會委員トナル○當選一回(20)

青木精一

群馬縣第一區選出
正五位勳三等

明治十六年四月群馬縣勢多郡新里村ニ生ル、正教神學校卒業○日露ノ役ニ從軍ス、日本電報通信社記者、大阪新報社東京支局長、中央新聞社政治部長トナル、又浦鹽派遣軍司令部附日本電報通信社從軍記者トシテ西伯利亞一帶ヲ視察ス、警保委員會委員、蠶絲委員會委員ヲ命セラル、遞信政務次官ニ任セラル、土木會議々員、電氣委員會委員、簡易生命保險積立金運用委員會委員、預金部資金運用委員會臨時委員、議院制度調査會委員被仰付○當選六回(15 16 17 18 19 20)

赤松克麿

北海道第四區選出
著述業

明治二十七年十二月德山市ニ生ル、東京帝國大學法學部卒業○著述業ニ從事ス○當選一回(20)

赤城宗徳

茨城縣第三區選出
農

明治三十七年十二月茨城縣眞壁郡上野村ニ生ル、東京帝國大學法科大學法律學科卒業○相續稅審査委員ヲ命セラル、又金錢債務臨時調停委員ニ選任セラル、茨城縣會議員、上野村長ニ擧ケラル○當選一回(20)

東　武

北海道第二區選出、立憲政友會

正五位勳三等、農

明治二年四月奈良縣吉野郡十津川村ニ生ル、東京法學院卒業○

十二年大和國十津川鄉擧テ水災ノ事アリ、依テ鄉民三千

餘人ヲ率キ北海道ニ移住シ新十津川村ヲ創設シ、更ニ二十五年

鄉人百戸ヲ團體移住セシメ、石狩國ニ深川村ヲ創設シ、開墾拓殖

ノ業ニ盡瘁セリ、北海道會議員ニ擧ケラル、北海時事新聞社々長

トナル、又日刊新聞北海タイムス社ヲ創設シ其社長タリ、都市計

畫北海道地方委員會委員被仰付、浦鹽派遣軍慰問ノ爲西伯利亞

ニ出張ス、農林政務次官ニ被任、鐵道會議々員、關稅調査會、米穀

委員會、小作調査會、人口食糧問題調査會、馬政調査會、臨時電氣

事業調査會、米穀調査會、米穀統制調査會、農林審議會各委員、

農林省米穀局顧問、米穀對策調査會委員、教學刷新評議會委員、

米穀自治管理委員會委員被仰付、米穀生產費調査會委員、競馬

法審査委員會委員ヲ囑託セラル、日本競馬會設立委員ヲ命セラ

ル○當選十回（1011 13 14 15 16 17 18 19 20）

立憲政友會

綾部健太郎

大分縣第二區選出、立憲政友會

勳四等、會社員

明治二十三年九月大分縣速見郡杵築町ニ生ル、京都帝國大學法

科大學政治科卒業○財政經濟時報ヲ經營ス、株式會社山口銀行

員、信越電力株式會社社員トナル、現ニ飯山鐵道株式會社常務取

締役、有樂商事株式會社代表取締役ニシテ鐵道省囑託タリ、列

國議會同盟會議ニ參列歐米各國ヲ視察ス○當選三回（1819 20）

淺沼稻次郎

東京府第四區選出、社會大衆黨

著述業

明治三十一年十二月東京府三宅島神着村ニ生ル、早稻田大學政

治經濟學部經濟科卒業○無產階級運動ニ携リ、日本農民、全日

本農民、全國農民各組合等ノ幹部トナル、又都市計畫東京地方委

員、東京市社會事業常設委員、同士木事業常設委員、同衞生常

任委員、同衞生常設委員、同佛貨公債訴訟臨時委員、同國際オ

リンピック誘致委員ヲ命セラル、現ニ全日本勞働組合、東京製糖工勞働組

材木產業勞働組合長、各種勞働團體、市民團體ノ顧問、東京市會議員、

合ノ各組合長、東京地方自由勞働組合、東京市會議員、

同參事會員タリ○當選二回（1920）

麻生　久

東京府第五區選出、社會大衆黨

辯護士

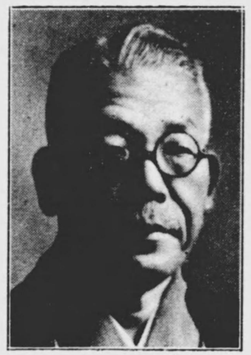
明治二十四年五月大分縣玖珠郡東飯田村ニ生ル、東京帝國大學

法學部卒業「濁流ニ泳グ」「生きんとする群」「黎明」等ノ著書ア

リ○曾テ新人會ノ組織ニ參加シ、又黎明會ヲ創立ス、勞働運動ニ

携ハリ各種勞働團體或ハ黨派ノ幹部ニ擧ケラル○當選二回（19

20）



秋田清

徳島縣第二區選出
正五位勳一等

明治十四年八月徳島縣三好郡足代村ニ生ル、中央大學日本大學卒業○高知區裁判所判事ニ任セラル、後辯護士ヲ開業ス、二六新報社々長トナル、國勢調査評議會委員、帝都復興院評議會評議員、臨時國語調査會委員、特別都市計畫委員會委員、鐵道會議員、臨時議員、航空輸送會社設立準備委員被仰付、遞信政務次官、内務政務次官ニ任セラル、勞働保險調査會臨時委員、瓦斯事業委員會委員、人口食糧問題計畫中央委員會臨時委員、預金部資金運用調査會委員、簡易保險積立金運用委員會委員、中央衞生會臨時委員、臨時電氣事業調査會委員、米穀調査會委員、法制審議會臨時委員、内閣審議會委員、選擧制度調査會委員被仰付○曩ニ衆議院議長タリ○當選九回（11 13 14 15 16 17 18 19 20）

芦田均

京都府第三區選出、立憲政友會
從四位勳三等、法學博士、新聞社長

明治二十年十一月京都府天田郡六人部村ニ生ル、東京帝國大學法科大學卒業「世界大戰後ノ歐洲外交」「列强ノ政戰」「ロシヤ印象記」「君府海峽通航制度史論」「最近ノ世界外交史」ノ著アリ○外交官補、大使館三等書記官、同參事官、外務書記官兼參事官、大使館一等書記官、同參事官ニ歷任シ、露國、土耳其、白耳義在勤ヲ命セラル、現ニ英字新聞ジヤパンタイムス社長、慶應大學講師、國際觀光委員、通商審議會委員タリ○當選三回（18 19 20）

佐保畢雄

長崎縣第二區選出、立憲政友會
勳四等、農

明治十三年一月福岡縣山門郡瀨高町ニ生ル、早稲田大學政治經濟科卒業○屢ゝ佐世保市會議員、長崎縣會議員、同參事會員ニ擧ケラル、又佐世保商業會議所議員トナル、都市計畫長崎地方委員會委員被仰付、又佐世保信託株式會社專務取締役、肥薩貯金會社株式會社取締役、株式會社佐世保鐵工所取締役社長、佐世保土地株式會社取締役トナル、佐世保商工會議所議員ニ擧ケラル、小作調停委員、金饌債務臨時調停委員ニシテ、株式會社大和屋洋服店取締役社長、佐世保貯蓄銀行監査役、株式會社九州鐵工所取締役タリ、慰問ノ爲滿洲國ニ派遣セラル、又南洋方面ヲ視察ス○紺綬褒章ヲ賜ハル○當選四回（17 18 19 20）

佐藤與一

新潟縣第二區選出、立憲民政黨
勳四等、農

明治十五年一月新潟縣中蒲原郡龜田町ニ生ル、早稲田大學ニ學フ○龜田町會議員、新潟縣會議員ニ選ハル、又株式會社沼垂銀行取締役、龜田町青年會長、同消防組頭、龜田實業補習學校講師トナル、現ニ龜田信用購買組合長、龜田町教育會長、龜田町農會長、龜田農業倉庫組合長、新潟縣體育協會副會長、中蒲原郡青年會長、新潟縣青年團長、龜田町會議員、雪害對策調査會委員、神社制度調査會委員被仰付、新潟縣農民道場講師ヲ委囑セラル、南洋方面ヲ視察ス○當選五回（16 17 18 19 20）

佐藤洋之助

茨城縣第三區選出、立憲政友會
勳四等、會社重役

明治二十七年七月茨城縣猿島郡古河町ニ生ル、慶應義塾理財科豫科卒業「產業處理統制法案ヲ排ス」「南洋を語る」ノ著書アリ○古河町會議員、茨城縣會議員、同副議長ニ擧ケラル、營業稅、營業收益稅竝所得調査委員、農山漁村臨時救濟資金審査委員ト酒類醬油問屋業、東武鐵道株式會社指定運送店竝乘合貸切貨物自動車業ヲ營ム、曩ニ古河靑年會長、猿島郡酒類營業組合長トナル、茨城每日新聞社ヲ興シ其顧問、茨城急行自動車株式會社ヲ創立シ其取締役社長、土井藩主ノ創設ニ係ル盈科學校ノ經營ニ當リ其校長タリ、南洋方面ヲ視察ス○當選三回（1819 20）

佐藤謙之輔

新潟縣第三區選出、立憲民政黨
官吏

明治十九年九月新潟縣南蒲原郡新潟村ニ生ル、東京帝國大學法科大學政治學科卒業○新潟村會議員、新潟縣會議員ニ選ハル、又新潟港是調査委員會委員、同農村經濟更生委員會委員、同臨時財政調査委員會委員等トナル、新潟村農會長、新潟市畜產組合長、新潟縣畜產組合聯合會副會長、同綿羊組合聯合會長、同家畜保險組合聯合會長、社團法人新潟競馬俱樂部常務理事、同帝國馬匹協會理事、相互信用無盡合資會社長、新潟硫酸株式會社監査役、株式會社新潟銀行取締役、新潟港灣倉庫株式會社常務取締役タリ、日本競馬會設立委員ヲ命セラル、現ニ商工參與官タリ、統制委員會委員被仰付、朝鮮、西比利亞、滿洲、支那及南洋ヲ視察ス○當選三回（1719 20）

佐藤啓

山形縣第一區選出、國民同盟
勳三等、農

明治元年二月山形縣西村山郡西山村ニ生ル、早稻田大學行政科卒業○山形日報社長トナル、又西山村長、山形縣會議員ニ選ハル、羽陽銀行取締役、山形民報社長トナル、東北振興調査會委員ヲ命セラル、三山電氣鐵道株式會社取締役、西村山郡產牛畜產組合長タリ、朝鮮、支那ヲ視察ス○當選六回（14 16 17 18 19 20）

佐竹晴記

高知縣第二區選出、社會大衆黨
辯護士

明治二十九年九月高知縣高岡郡窪川町ニ生ル、中央大學法科專門部卒業○辯護士試驗ニ合格シ其業務ニ從事ス、高知市會議員、同參事會員、高知縣會議員ニ擧ケラル、全國農民組合顧問トナル○當選二回（1920）

齋藤隆夫

兵庫縣第五區選出、立憲民政黨
從四位勳三等、辯護士

明治三年八月兵庫縣出石郡室埴村ニ生ル、早稲田大學卒業後米國エール大學院卒業「帝國憲法論」「比較國會論」「憲法及政治論集」「迷想的陪審制度論」等ノ著アリ○列國議會同盟會議、萬國議院商事會議ニ參列ス、曩ニ衆議院議員選擧法調査會委員、臨時法制審議會臨時委員被仰付、法制局長官、再度內務政務次官ニ被任、都市計畫中央委員會、勞働保險調査會、中央衞生會、法制審議會各臨時委員、失業對策委員會、米穀統制調査會、衆議院議員選擧革正審議會、瓦斯事業委員會、保健衞生調査會、神社制度調査會、國立公園委員會、阿片委員會、藥業振興委員會、議院制度調査會各委員、鐵道會議、土木會議各議員被仰付○當選九回（11 12 13 15 16 17 18 19 20）

齋藤直橘

福井縣選出、立憲民政黨
從四位勳三等、會社員

明治十六年五月宮城縣伊具郡丸森町ニ生ル、東京帝國大學法科大學卒業○文官高等試驗合格、福井縣理事官、福井縣知事ニ歷任ス、又福井市長トナル、宗教制度調査會委員被仰付○當選三回（18 19 20）

澤田利吉

北海道第一區選出、立憲民政黨
農

明治十二年八月富山縣射水郡新湊町ニ生ル○黑松內村會議員、北海道會議員、同參事會員ニ選ハル、營業稅審査委員、地價調査委員、小作調停委員、南尻別電氣株式會社々長、北海道日々新聞社々長トナル、曩ニ北海道廳ノ囑託ヲ受ケ朝鮮、濠洲及支那ノ產業ヲ視察ス、札幌市會議員、都市計畫委員タリ○當選四回（15 17 19 20）

坂田道男

熊本縣第二區選出、立憲政友會
正六位、農

明治二十年五月熊本縣八代郡植柳村ニ生ル、東京帝國大學法科卒業後經濟學研究ノ爲英獨ニ留學ス○第五高等學校講師、同教授ニ任セラル、植柳村會議員、熊本縣會議員ニ選ハル、現ニ村農會總代、小作調停委員、小作審議會委員、植柳漁業組合長、八代郡水產會評議員、明治新田耕地整理組合長、肥後藺莚同業組合評議員、八代郡農會長、同郡籾摺業組合長、同郡出荷聯合會長、同實業團體聯合會長等タリ○當選一回（20）

坂下仙一郎

靜岡縣第三區選出、立憲民政黨
會社員

明治九年十一月靜岡縣濱名郡雄踏町ニ生ル○多年小學校訓導ヲ奉職ス、雄踏町會議員、靜岡縣會議員ニ選ハル、濱松自動車組合長、靜岡縣自動車業組合副會長、同交通安全協會副會長、日本乘合自動車協會理事、濱名郡水產會評議員、同郡養鷄組合長、同出荷組合聯合會長、靜岡縣水產會議員、同縣茶業組合評議員、同聯合會議員、所得調查委員トナル、又雄踏町長ニ就任スルコト三回、濱名郡養鷄組合長、同郡農會長、同郡畜產組合長タリ○當選二回（1920）

坂本宗太郎

埼玉縣第二區選出、第二控室
織物業

明治十七年十二月埼玉縣秩父郡橫瀨村ニ生ル、東京高等工業學校卒業○橫瀨村會議員、所得稅營業收益稅調查委員ニ選ハル、秩父絹織物工業組合會議員、同組合評議員、同組合長、秩父織物同業組合理事長、全國銘仙聯盟會委員長、工業組合中央會理事、埼玉縣織物組合聯合會々長トナル○當選一回（20）

作田高太郎

廣島縣第三區選出、立憲民政黨
正五位勳四等、辯護士

明治二十年五月廣島縣沼隈郡藤江村ニ生ル、中央大學卒業○辯護士試驗合格、辯護士ノ業務ニ從事ス、常磐採炭株式會社、日英釀造株式會社各取締役、大日本釀造株式會社監查役、千代田毛織株式會社取締役トナル、文部參與官ニ任セラル、國語審議會委員、體育運動審議會委員、臨時ローマ字調查會委員、度量衡制度調查會委員、敎學刷新評議會委員、宗敎制度調查會委員、實業敎育振興委員會委員被命○當選五回（16 17 18 19 20）

櫻井兵五郎

石川縣第二區選出、立憲民政黨
正五位勳三等、會社員

明治十三年八月石川縣鳳至郡柳田村ニ生ル、早稻田大學政治經濟科卒業○石川縣會議員ニ選ハル、日本タイプライター株式會社々長、北陸每日新聞株式會社々長タリ、商工參與官、拓務政務次官ニ被任、瓦斯事業委員會、國產振興委員會、不當廉賣審查委員會、統制委員會、米穀對策調查會、關稅調查委員會、海外拓殖委員會各委員被仰付、雪害對策調查委員會委員、臺灣總督府熱帶產業調查會委員、南洋群島開發調查委員會委員、又簡易生命保險積立金運用委員會委員、南洋拓殖株式會社設立委員被仰付○當選八回（12 補 12 13 16 17 18 19 20）

櫻內幸雄

島根縣第一區選出、立憲民政黨
從三位勳二等

明治十三年八月島根縣能義郡廣瀨町ニ生ル○支那興業株式會社、岡山水電株式會社、揖斐川電氣株式會社、相模電力株式會社々長、日本電燈株式會社、利根水力株式會社、東北紡績株式會社外十數會社取締役、桂川電力株式會社、北海道製鐵株式會社、桂川電氣興業株式會社、朝鮮新聞社各取締役、北海炭礦汽船株式會社、琴川電力株式會社監査役トナル、國債貸借審議會委員、衆議院議員選舉革正審議會委員被仰付、商工大臣ニ被任、資源審議會副總裁、臨時產業審議會副會長被仰付、列國議會同盟會議ニ參列ス○當選七回（14 15 16 17 18 19 20）

崎山嗣朝

沖繩縣選出、立憲政友會
勳四等、辯護士

明治二十一年五月首里市ニ生ル、京都帝國大學獨逸法科卒業○三度那覇市會議員、沖繩縣會議員ニ選ハル、現ニ辯護士ノ業務ニ從事ス○當選三回（17 18 20）

木原七郎

廣島縣第二區選出、立憲民政黨
會社重役

明治十七年一月廣島縣安藝郡矢野町ニ生ル、早稻田大學政治經濟科卒業○廣島縣會議員ニ選ハル、又株式會社藝備日日新聞社取締役社長トナル、日本鋼鎖株式會社取締役タリ○當選二回（17 20）

木村武雄

山形縣第一區選出、東方會
著述業

明治三十五年八月米澤市ニ生ル、明治大學法學部卒業○米澤市會議員、山形縣會議員ニ選ハル○當選二回（19 20）

木村正義

熊本縣第一區選出、立憲政友會
正五位勳三等、官吏

明治二十三年一月熊本縣鹿本郡川邊村ニ生ル、東京帝國大學法科大學卒業「公民教育」「職業指導」ノ著アリ○新潟縣屬兼警視、同久世郡長、文部書記官兼文部大臣祕書官兼京都府屬兼警視、同省參事官兼任營繕管財局事務官、文部省學生部長、同實業學務局第一、第四、工業及補習教育、歷任ス、其間實業學務局長ヲ命セラル、文政審議會幹事、大禮使典儀官被仰付、又第一回國際勞働會議臨席ノ爲米國ヘ、教育制度視察ノ爲歐米各國ヘ出張ヲ命セラル、議院制度調査會委員、關稅調査委員會委員被仰付、現ニ內務參與官タリ○當選三回（1919 20）

木村淺七

栃木縣第二區選出、立憲民政黨
織物製造輸出貿易業

明治二十四年十一月足利市ニ生ル、東京高等商業學校卒業○足利町會議員、栃木縣會議員ニ選ハレ、同副議長ニ擧ケラル、都市計畫栃木地方委員會委員被仰付、現ニ足利市會議員、小作調停委員、商事調停委員、健康保險審查會委員、失業防止委員會委員、株式會社足利銀行取締役、足利織物同業組合評議員、明治紡績株式會社、株式會社野澤屋輸出店、兩毛整織株式會社各監查役タリ、日本輸出人造織物工業組合聯合會ヲ組織シ理事トナル、海外織物市場視察ノ爲比島、濠洲、英領印度、ビルマ海峽殖民地ヲ巡遊ス○當選二回（1920）

木村作次郎

岐阜縣第二區選出、立憲政友會
新聞社主

明治五年七月大垣市ニ生ル、東京法學院及東京政治學校ニ學フ○大垣町會議員、安八郡會議員、大垣市會議員、同副議長、同議長、岐阜縣會議員ニ擧ケラル、又大垣商業會議所特別議員トナル、曩ニ雜誌濃州ヲ發刊、後之ヲ日刊トシ美濃新聞ト改メ、次テ美濃大正新聞ト改題現ニ之ヲ經營ス、大垣輪中水害豫防組合議員タリ○當選三回（1419 20）

木下成太郎

北海道第五區選出、立憲政友會
勳三等、農

慶應元年八月兵庫縣舊豐岡藩邸ニ生ル、舊藩儒實林義塾ニ漢籍ヲ修メ、帝國大學豫備門ニ學フ○曩ニ厚岸町ニ於テ本邦最初ノ沃度加里製造ニ從事ス、厚岸町會議員、徵兵參事員、北海道會議員ニ選ハル、水產組合長、漁業組合取締役トナリ、又北海道會新聞ヲ刊行ス、帝國美術學校ヲ設立シ現ニ其校主タリ○當選七回（1617 18 19 20）

木本圭一郎

和歌山縣第一區選出、立憲政友會
勳四等、會社重役

明治八年三月和歌山縣海草郡木本村ニ生ル、早稲田大學政治科卒業○屢ゝ和歌山縣會議員、同議長ニ擧ケラル、阪和鐵道株式會社取締役、加太電氣鐵道株式會社々長、幸福無盡株式會社々長、阪和土地住宅株式會社取締役トナル、現ニ和歌山縣農會長、同縣畜産聯合會長タリ○當選三回(16 18 20)

喜多壯一郎

石川縣第二區選出、立憲民政黨
大學講師

明治二十七年二月石川縣羽咋郡北大海村ニ生ル、早稲田大學法學部英法科卒業後歐米各國ニ留學「ジョンス・ホプキンス」大學「プリンストン」大學院「ミズリー」大學及「コロンビヤ」大學等ニテ講座ヲ擔當、現ニ大學講演部長タリ○當選二回(1920)

北勝太郎

北海道第四區選出、第二控室
從七位、農

明治二十二年九月石川縣能美郡御幸村ニ生ル○陸軍歩兵少尉ニ被任中尉ニ進ム、再度砂川町會議員、三度北海道會議員ニ選ハル、現ニ奈井江信用販賣購買利用組合長理事、砂川町農會長、北海道信用購買販賣組合理事、空知郡農會長、北海道製酪組合聯合會理事タリ○當選二回(1920)

北昤吉

新潟縣第一區選出、立憲民政黨
著述業

明治十八年七月新潟縣佐渡郡西津町ニ生ル、早稲田大學文學部哲學科卒業後米國「ハーバート」大學、獨逸國伯林大學「ハイデルベルヒ」大學ニ學フ「哲學より政治へ」「光は東方より」「哲學概論」「ロヂヤース氏西洋哲學史」「ベフデイング氏近世哲學史」其他數種ノ著書及飜譯アリ○茨城縣立土浦中學校教諭、東京府立第三中學校教諭ヲ被命、又早稲田大學講師、大東文化學院教授、日本新聞編輯監督兼大東文化協會比較研究部主査兼教授、日本新聞編輯監督兼論説記者トナル、多摩帝國美術學校ヲ創立シ現ニ名譽校長、大正大學講師タリ、雜誌祖國ヲ創刊主宰ス、國際聯盟會議參列帝國全權隨員トシテ「ゼネバ」ニ至リ後歐米各國ヲ見學ス○當選二回(1920)

北原　阿智之助

長野縣第三區選出、立憲民政黨
農

明治元年三月長野縣下伊那郡座光寺村ニ生ル「伊那名勝誌」「建國頌竝解說」ノ著書アリ○上鄉村助役トナリ、同村長ニ重任ス ルコト九回、屢〻上鄉村會議員、下伊那郡會議員、長野縣會議員、同參事會員ニ選ハル、又長野地方森林會議員、下伊那郡方面委員會長、同郡農會副會長、產業組合下伊那郡部會副會長、上鄉消防組頭トナル、現ニ產業組合中央會長野支部理事、有限責任下伊那生絲販賣聯合會長、產業組合下伊那郡部會副會長、長野縣產業組合製絲組合理事、無限責任上鄉生絲販賣組合長、上鄉村農會長、長野縣信用組合聯合會理事、同社會事業協會理事等タリ○當選三回（17 19 20）

清　寬

岐阜縣第一區選出、立憲民政黨
勳四等、新聞社長

明治二十年三月靜岡縣富士郡富士村ニ生ル○名古屋市會議員ニ當選二回、紙業新聞、名古屋製紙、太陽製紙、帝國製絲、岐阜製紙、平湯溫泉土地、濃飛印刷、全國製紙博覽會、美德善行表彰會等ヲ創立シ其社長、會長、重役トナル、現ニ岐阜新聞、平湯溫泉土地、濃飛印刷各社長、美德善行表彰會長タリ、滿洲國、支那、南洋又列國議會同盟會議ニ參列歐米各國ヲ視察ス○當選三回（18 19 20）

清瀨　一郎

兵庫縣第四區選出、國民同盟
勳四等、法學博士、辯護士

明治十七年七月兵庫縣飾磨郡置鹽村ニ生ル、京都帝國大學法科大學卒業、後英、獨、佛國ニ留學ス○司法官試補ヲ命セラル、現ニ辯護士業ニ從事ス、衆議院議員選擧革正審議會委員、法制審議會臨時委員、議院制度調查會委員被仰付○曩ニ衆議院副議長タリ○當選七回（14 15 16 17 18 19 20）

清瀨　規矩雄

大分縣第二區選出、立憲政友會
正六位勳四等、會社重役

明治十一年十月大分縣宇佐郡四日市町ニ生ル、米國ニ留學ス○東京朝日新聞記者、滿鐵總裁祕書役トナル、又農林大臣祕書官ニ任セラルル、豐國セメント株式會社取締役トナル、國有財產調查會委員被仰付、滿洲國ヲ視察ス○當選五回（14 17 18 19 20）

菊池良一

青森縣第二區選出、立憲民政黨
勳三等、辯護士

明治十二年十月弘前市ニ生ル、京都帝國大學法科大學卒業○嘗テ支那貿易ニ從事ス、合資會社ボルネオ物產商會代表者タリ、派遣軍等嘱間ノ爲滿洲及支那ニ派遣セラル○當選七回（12 13 14 17 18 19 20）

菊地養之輔

宮城縣第一區選出、社會大衆黨
辯護士

明治二十二年九月宮城縣名取郡玉浦村ニ生ル、中央大學法科卒業○辯護士試驗ニ合格ス、曾テ小學校代用教員、準訓導、小學校教員、中央大學編輯部員、郡山專賣支局員タリ、後辯護士ヲ開業其業務ニ從事ス、宮城縣會議員ニ擧ケラル、仙臺辯護士會副會長タリ○當選一回（20）

岸田正記

廣島縣第一區選出
勳四等、官吏

明治二十八年十二月廣島縣賀茂郡西志和村ニ生ル、長崎高等商業學校、京都帝國大學法學部卒業○文官高等試驗ニ合格ス、曩ニ滿洲ニテ土地家屋經營ニ從事ス、岸田不動產商事社、大連幾久屋百貨店ヲ經營ス、現ニ海軍參與官タリ○當選五回（16 17 18 19 20）

行吉角治

岡山縣第一區選出、立憲政友會
會社重役

明治二十三年六月岡山縣和氣郡香登町ニ生ル○通信事業ヲ經營シ、株式會社聯合通信社取締役社長トナル、又善光寺登山鐵道株式會社重役、行吉商事株式會社取締役社長、株式會社日本建材工業所取締役社長トナル○當選二回（19 20）

三輪壽壯

東京府第五區選出、社會大衆黨
辯護士

明治二十七年十二月福岡縣糟屋郡席內村ニ生ル、東京帝國大學法學部獨法科卒業○辯護士ヲ開業現ニ其業務ニ從事ス、金錢債務臨時調停委員ニ選任セラル、又東京府教育調査會委員ヲ囑託セラル、內閣調査局專門委員被仰付○當選一回（20）

三善信房

熊本縣第二區選出、立憲政友會
從七位勳四等、農

明治十五年五月熊本縣上益城郡六嘉村ニ生ル○陸軍步兵中尉ニ任セラル、三度熊本縣會議員ニ當選、同參事會員ニ擧ケラル、熊本縣畜產組合聯合會々長、九州畜產會長、帝國馬匹協會理事、中央畜產會理事タリ、社會事業調査會委員ヲ委囑セラル、日本競馬會設立委員ヲ命セラル○當選三回（18 19 20）

三好榮次郎

鳥取縣選出、立憲民政黨
新聞社長

明治十八年八月米子市ニ生ル、早稻田大學政治經濟科卒業○山陰實業銀行頭取、內國通運株式會社、山陰水力電氣株式會社各取締役トナル、株式會社山陰日々新聞社ヲ創立シ、現ニ其社長タリ、國際觀光委員會委員被仰付○當選五回（15 16 17 19 20）

三田村武夫

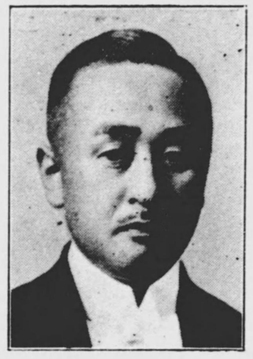
岐阜縣第二區選出、東方會
著述業

明治三十二年六月岐阜縣揖斐郡川合村ニ生ル、內務省警察講習所卒業「社會運動概說批判取締」「警察强化ノ研究」「非常時讀本」「皇道維新綱領」「時局國民讀本」其他數種ノ著書アリ○岐阜縣巡査ヲ命セラル、岐阜縣警部補、內務屬、拓務屬ニ歷任ス○當選一回（20）

三土忠造

香川縣第二區選出、立憲政友會
正三位勳一等

明治四年六月香川縣大川郡譽水村ニ生ル、東京高等師範學校卒業、後英、獨ニ留學ス○東京高等師範學校教授、韓國政學參與官、大藏省參事官、內閣書記官長、農商務次官、農商務政務次官、文部大臣、大藏大臣、遞信大臣、鐵道大臣ニ任セラル、又曩ニ東京日日新聞編輯長及營業部長タリ、臨時教育會議、米穀委員會、教育調査會、財政經濟調査會、法制審議會、鐵道會會其他各種委員會、臺灣銀行調査會、行政制度審議會、交通審議會等ノ委員及議員ヲ被仰付、支那、朝鮮ヲ視察ス○當選十一回（10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20）



三浦虎雄

宮崎縣選出、東方會
從五位勳三等

明治十六年五月東京市ニ生ル、京都帝國大學法科大學政治學科卒業○海軍主計中佐ニ任セラル、日獨戰役、尼港事變ニ從軍ス、横濱市隣保館長、內務省社會事業調査會委員トナル、列國議會同盟會議竝萬國議院商事會議ニ參列シ、且歐米各國ニ於ケル社會施設ヲ研究視察ス○當選四回（16 17 19 20）

三宅正一

新潟縣第三區選出、社會大衆黨
醫療組合理事

明治三十三年十一月岐阜縣惠那郡靜波村ニ生ル、早稻田大學政治經濟學部卒業「青年運動論」「電氣料はいくらが正當か」「農民辭典」「木崎爭議の眞相」ノ著書アリ○農民組合運動ニ從事シ新潟縣ニ駐在ス、中越醫療組合病院ノ創立ニ努メ現ニ其常務理事タリ、長岡市會議員ニ選ハル○當選二回（19 20）

三木武夫

德島縣第二區選出、第二控室
著述業

明治四十年三月德島縣板野郡御所村ニ生ル、明治大學商科同法學部及米國カリフォルニア州アメリカン大學卒業○歐米各國ノ政治經濟及社會事情ヲ視察ス○當選一回（20）

水谷長三郎

京都府第一區選出、社會大衆黨

辯護士

明治三十年十一月京都市ニ生ル、京都帝國大學法學部法科卒業

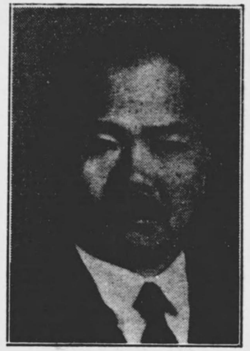
「唯物史觀批判」「科學的社會主義序論」「ゴータ綱領批判」「史的唯物論略解」「通俗資本論」「階級意識論」「法廷に於ける小作爭議」等ノ著書及飜譯書アリ○大原社會問題研究所囑託、立命館大學講師トナル、又社會運動ニ携ハリ日本農民組合顧問トナル○當選三回（16 19 20）

南鼎三

大阪府第六區選出、立憲政友會

農

明治十四年五月大阪府泉北郡伯太村ニ生ル、關西商工學校卒業○大阪府土木工手、土木技手、東京市土木技手、京都市土木技手ヲ命セラル、又大阪府會議員、同參事會員ニ選ハル、法制審議會特別委員被仰付、京都市ニ於テ商工務所ヲ經營ス、借地借家調停委員、金錢債務臨時調停委員タリ○當選二回（14 20）



宮脇長吉

香川縣第一區選出、立憲政友會

正五位勳三等功五級、會社重役

明治十三年二月香川縣大川郡譽水村ニ生ル、陸軍士官學校、同砲工學校、同戸山學校卒業○陸軍航空兵大佐ニ任セラレ、陸軍士官學校教官、氣球隊長ニ補セラル、國際觀光委員會委員被仰付、滿洲國ヲ視察ス、滿洲セメント株式會社其他重役タリ○當選五回（16 17 18 19 20）

宮澤胤勇

長野縣第三區選出、立憲民政黨

會社員

明治二十年十二月長野縣諏訪郡川岸村ニ生ル、早稻田大學政治經濟科卒業○陸軍一等主計ニ任セラル、明治製革株式會社取締役、櫻組工業株式會社常務取締役トナル、又スタンダート靴株式會社ヲ創立シ其取締役タリ、內閣調査局參與被仰付○當選三回（17 19 20）

宮澤裕

廣島縣第三區選出、立憲政友會
從五位勳四等、會社重役

明治十七年一月廣島縣沼隈郡金江村ニ生ル、東京帝國大學法學部政治科卒業「平易なる思想論」「過まれる金解禁策」「買被られた歐米」「帝國憲法ト機關論」「稅制改革と豫算」ノ著書アリ○嘗テ長野縣屬トナル、遞信大臣祕書官、內務大臣祕書官ニ任セラル、又福島炭礦株式會社支配人代理トナル、東洋鐵鋼株式會社、大和サッシュ株式會社、株式會社洛西館、大日本高粱酒株式會社、昭和商事株式會社各取締役、日本新聞社顧問トナル、三木醬油株式會社取締役、日東セメント株式會社取締役タリ、列國議會同盟會議ニ參列シ歐米各國ヲ視察ス、又支那滿蒙ヲ視察ス、內閣調査局參與被仰付○當選五回（16 17 18 19 20）

宮澤清作

宮城縣第一區選出、立憲政友會
正七位勳四等、辯護士

明治十一年四月宮城縣宮城郡多賀城村ニ生ル、日本大學卒業○判檢事登用試驗ニ合格ス、裁判所書記、司法官試補ヲ經テ判事ニ被任、宇都宮地方、栃木區、仙臺區、仙臺地方各裁判所判事ニ補セラル、後辯護士トナル、仙臺辯護士會副會長、宮城縣會議員、同參事會員ニ擧ケラル、財政審議會委員、臨時縣治調査會委員、同參事會員、電氣事業統一委員、公私經濟緊縮委員等ヲ囑託セラル、東北振興調査會委員、度量衡制度調査會委員被仰付○紺綬褒章ヲ賜ハル○當選四回（17 18 19 20）

宮崎一

埼玉縣第一區選出、立憲政友會
勳四等、辯護士

明治十九年十一月浦和市ニ生ル、東京帝國大學法科大學英法科卒業○辯護士ヲ開業、現ニ其業務ニ從事ス、曩ニ浦和町會議員、埼玉縣會議員、同議長、浦和辯護士會長ニ推選セラル○當選三回（18 19 20）

宮本雄一郎

靜岡縣第一區選出、立憲政友會
勳四等、農

明治十年九月靜岡縣小笠郡朝比奈村ニ生ル○朝比奈村助役トナル、又屢ゝ同村長、同村會議員、小笠郡會議員、靜岡縣會議員、同議長ニ擧ケラル、現ニ靜岡縣茶業組合聯合會議所理事、郡農會長タリ、列國議會同盟會議ニ參列シ歐米各國ヲ視察ス○當選三回（18 19 20）

斯波貞吉

東京府第五區選出、立憲民政黨
勳四等、著述業

明治二年八月福井市ニ生ル、東京帝國大學文科大學英文學選科卒業、英國「オックスフオード」大學ニ學フ○盛岡中學校教諭ニ任セラル、又高輪佛教高等中學、佛教大學教授タリ、萬朝報英文記者、同編輯局長、同主筆ヲ經テ、後東京大勢新聞社長兼主筆トナル、臨時國語調査會委員、寺院境内地讓與審査會委員、文政審議會委員、國語審議會委員被仰付○當選六回（15 16 17 18 19 20）

志賀和多利

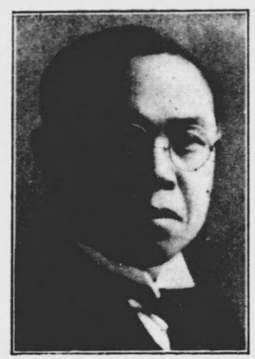
岩手縣第二區選出、立憲政友會
正五位勳三等、辯護士

明治七年十月岩手縣膽澤郡金ケ崎村ニ生ル、日本大學法律科卒業○文官高等試驗及判事檢事登用試驗ニ合格ス、司法官試補、檢事代理ヲ命セラル、後辭シテ辯護士トナル、又鐵道參與官、遞信政務次官ニ任セラレ、鐵道會議臨時議員、簡易生命保險積立金運用委員會委員、預金部資金運用委員會臨時委員、海事審議會委員被仰付○當選七回（14 15 16 17 18 19 20）

信太儀右衛門

秋田縣第一區選出、立憲民政黨
會社重役

明治十五年十一月秋田縣山本郡金岡村ニ生ル、札幌農學校及早稲田大學政治經濟科ニ學フ○金岡村長、秋田縣會議員ニ擧ケラル、體育協會顧問、日本山岳會員、秋田魁新聞社監査役、山本郡聯合青年團長トナル、能代酒造株式會社々長タリ、東北振興電力株式會社設立委員被仰付、朝鮮、滿洲、西比利亞、支那、南洋、馬來半島及蘭領印度ヲ視察ス○當選四回（15 17 19 20）



清水德太郎

山形縣第二區選出、立憲民政黨
從四位勳三等

明治十五年二月富山縣下新川郡大家庄村ニ生ル、東京帝國大學法科大學政治科卒業、後同大學院ニ入リ社會政策並植民政策ヲ研究ス「最近歐米各國事情」ノ著書アリ○文官高等試驗合格、鐵道院副參事、同參事、奈良、宮崎、山形各縣警察部長、山形縣內務部長、和歌山縣知事ニ歷任ス、東北興業株式會社設立委員被仰付、曩ニ西比利亞竝滿洲ニ出張ヲ命セラル、又列國議會同盟會議、萬國議院商事會議ニ參列歐米各國ヲ視察ス○當選五回（16 17 18 19 20）

清水留三郎

群馬縣第一區選出、立憲民政黨
勳四等、著述業

明治十六年四月前橋市ニ生ル、早稻田大學卒業後米國ワシントン州立大學、同ミネソタ州立大學ニ學ヒ「マスター・オブ・ローレス」ノ學位ヲ受ク、又北京ニ於テ支那語ヲ研究ス○曾テ歐東産業新聞社長、株式會社上野新聞社專務取締役、上毛機織合資會社代表社員、合資會社櫻組支配人タリ、萬國議院商事會議ニ參列ス、朝鮮、支那、西比利亞及南支南洋方面ヲ視察ス○當選六回（14 15 16 18 19 20）

鹽川正藏

靜岡縣第二區選出、立憲政友會
從六位、辯護士

明治十八年二月靜岡縣富士郡大宮町ニ生ル、東京帝國大學法科大學法律學科卒業○文官高等試驗ニ合格ス、靜岡縣警部、岡山縣後月、同吉備、同小田各郡長ニ歷任ス、後東京市主事ニ被任、社會局公營課長、經理課長、商工課長、土木局庶務課長ヲ命セラル、又麻布區長、本鄉區長、京橋區長、東京市主事兼理事ニ被任方面委員其ノ他各種委員ヲ命セラル、現ニ辯護士ノ事務ニ從事ス○當選一回（20）

庄晋太郎

山口縣第一區選出、立憲政友會
勳四等、酒造業

明治三年三月宇部市ニ生ル、明治法律學校法律科卒業○宇部村會議員、同參事會員、同議長、宇部市會議員、同參事會員、山口縣會議員、同議長ニ擧ケラル、又山口地方森林會議員、厚狹郡水產會議員、宇部漁業組合理事、山陽採炭株式會社常務取締役トナル、長陽炭礦、神原炭礦、沖ノ山炭礦會社ノ各重役、株式會社宇部銀行、宇部鐵道株式會社、宇部セメント製造株式會社ノ各重役、宇部消防組頭、山口縣水產會長タリ○公益ノ爲私財ヲ寄附セシ廉ヲ以テ紺綬褒章ヲ賜ハル○當選四回（16 17 18 20）

庄司一郎

宮城縣第一區選出、立憲政友會
公吏

明治二十五年一月宮城縣伊具郡角田町ニ生ル、東北學院ニ學フ「町村自治ト公民生活」「鄉土史の研究」其他數種ノ著書アリ○仙臺日日新聞及東北新聞記者、仙南新聞主幹トナル、大河原町會議員、宮城縣會議員ニ選ハル、現ニ大河原町長、大河原町學務委員、柴田郡養蠶組合長、大河原町農會長、同町教育會長、同職業紹介所長ニシテ仙南日々新聞社ヲ創立社長、月刊雜誌「新東北」ヲ創刊其社長タリ、小作金穀補償米審査委員ヲ命セラル、滿洲駐劄第二師團將兵慰問ノ爲滿洲ニ赴ク○當選一回（20）

篠原陸朗

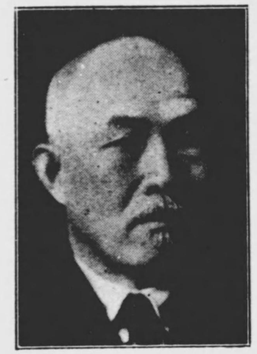
千葉縣第一區選出、立憲民政黨
從四位勳四等

明治十六年三月千葉縣山武郡東金町ニ生ル、東京帝國大學法科大學法律科卒業○文官高等試驗ニ合格ス、司法官試補ヲ命セラル、後大藏屬、稅務監督局事務官、大藏省主計官、同書記官、長崎稅關長、熊本稅務監督局長ニ歷任ス○當選三回(17 19 20)

篠原義政

群馬縣第二區選出、立憲政友會
正七位勳四等、辯護士

明治二十五年一月群馬縣碓氷郡八幡村ニ生ル、東京帝國大學法科大學法律科卒業「日本はどうなる！」「滿洲縱橫記」ノ著アリ○文官高等試驗ニ合格ス、長野縣屬、東京府屬、內務屬、內閣軍需局事務官、國勢院書記官ニ歷任ス、辯護士トナリ、現ニ其業務ニ從事ス、選擧制度調查會委員被仰付○當選三回(18 19 20)



島田俊雄

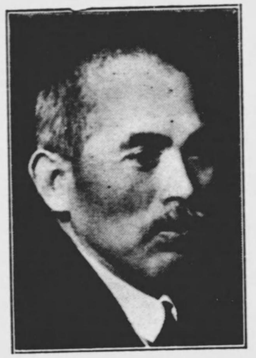
島根縣第二區選出、立憲政友會
從三位勳二等、辯護士

明治十年六月島根縣伊賀郡淺利村ニ生ル、東京帝國大學法科大學政治學科卒業「自治制大意」「改正衆議院議員選擧法論」外數種ノ著書アリ○東京市敎育課長、勸業課長兼臨時市勢調查局長心得ニ補セラレ、在職中英國ニ出張ス、早稻田、中央、日本、法政等各大學講師ト爲ル、又淸國雲南省法政學堂講師ニ聘セラル、政治雜誌「明義」「王道」實業雜誌「實業時論」等ヲ經營ス、臨時敎育行政調查會委員、敎科書調查會委員被仰付、法制局長官、農林大臣ニ被任、衆議院議員選擧革正審議會、法制審議會、神社制度調查會、資源審議會、國有財產調查會、簡易生命保險積立金運用委員會、臨時ローマ字調查會、文政審議會、米穀對策調查會、敎學刷新評議會、北海道拓殖計畫調查會各委員被仰付、日本競馬會設立委員長ヲ命セラル、支那朝鮮及米國ヲ視察ス○當選八回(11 13 14 16 17 18 19 20)

重松重治

大分縣第二區選出、立憲民政黨
勳四等、會社重役

明治三年十一月大分縣宇佐郡柳ケ浦村ニ生ル○村會議員、郡會議員、縣會議員ニ選ハル、又諸會社ノ重役タリ、鐵道會議臨時議員被仰付○當選七回(14 15 16 17 18 19 20)



椎尾辨匡

愛知縣第一區選出、第二控室

文學博士、僧侶

明治九年七月名古屋市ニ生ル、東京帝國大學文學部哲學宗教科、同大學院卒業「安心生活」「人間の宗教」「共生の基調」「佛教經典概說」其他多數ノ著書及經典釋書アリ○天台宗大學講師、東海中學校長、明照高等實業女學校長トナル、慈友會ヲ創設シ各種社會事業ヲ經營ス、又佛教朝鮮協會、共生會ヲ組織シ、內鮮共生ノ各種事業、教化事業ヲ行ヒ慈友學園竝佛教朝鮮協會ニ對シ御內帑金ヲ賜ハル、慈友會母子寮長、慈友學園長、保育園長、幼稚園長、佛教朝鮮協會理事長、財團法人共生會長、中央融和事業教會理事、建中寺住職、大正大學教授、早稲田大學、日本大學各講師、東京岩淵實業高等學校長タリ○當選三回（16 19 20）

肥田琢司

廣島縣第二區選出、立憲政友會

著述業

明治二十二年二月廣島縣安藝郡海田市町ニ生ル○千代田印刷株式會社々長、廣島每夕新聞社長、自由評論社長、東京商業會議所議員、安藝蠶業購買組合長、私立吳英語學校顧問トナル○當選三回（16 19 20）

樋口善右衞門

愛知縣第二區選出、立憲政友會

賣藥製造業

明治九年三月愛知縣東春日井郡守山町ニ生ル○屢ミ守山町會議員、愛知縣會議員ニ選ハル○當選一回（20）

比佐昌平

福島縣第三區選出、立憲民政黨

正五位勳四等、官吏

明治十七年三月福島縣石城郡湯本町ニ生ル、早稲田大學政治經濟科卒業○曩ニ陸軍參與官ニ任セラル、現ニ陸軍參與官タリ○當選六回（15 16 17 18 19 20）

一松定吉

大阪府第一區選出、立憲民政黨
從五位勳三等、辯護士

明治八年三月大分縣西國東郡高田町ニ生ル、明治法律學校卒業○曩ニ訓導ヲ命セラレ大分縣波多方尋常小學校、東京市育英尋常高等小學校ニ奉職ス、判事檢事登用試驗ニ及第、司法官試補ヲ命セラル、判事ニ任セラレ、大分地方裁判所判事、長崎區裁判所判事ニ補セラル、又檢事ニ任セラレ、天草、飯塚、佐賀、横濱、大阪ノ各地方兼區裁判所檢事及大阪控訴院檢事、大審院檢事ニ補セラル、後職ヲ辭シテ辯護士ノ業務ニ從フ、大阪市會議員ニ擧ケラル○當選五回（16 17 18 19 20）

平川松太郎

神奈川縣第三區選出、立憲民政黨
正五位勳四等、辯護士

明治十年五月廣島縣雙三郡和田村ニ生ル、中央大學卒業○辯護士試驗ニ合格シ、辯護士ノ業務ニ從事ス、小田原商業學校長タリ、遞信大臣祕書官、遞信參與官ニ任セラル、簡易生命保險積立金運用委員會委員、政府貸付金處理委員會委員被仰付、樺太及亞港方面ヲ視察ス○當選六回（15 16 17 18 19 20）

平野力三

山梨縣選出、第二控室
出版業

明治三十一年十一月岐阜縣郡上郡山田村ニ生ル、東洋協會植民專門學校、早稻田大學專門部政治經濟科卒業○日本農民組合關東同盟宣傳部長等トナル、現ニ日本農民組合會長、產業組合時報社理事長、協同聯合通信社理事長タリ○當選二回（19 20）

平野光雄

靜岡縣第一區選出、立憲民政黨
正五位勳四等

明治十四年一月靜岡縣庵原郡由比町ニ生ル、慶應義塾政治科卒業○曩ニ時事新報記者タリ、日本茶精株式會社取締役、伊勢製茶株式會社監査役トナル、臨時法制審議會臨時委員被仰付、遞信參與官ニ任セラレ、簡易生命保險積立金運用委員會委員被仰付、列國議會同盟會議ニ參列ス○當選六回（14 15 17 18 19 20）

匹田鋭吉

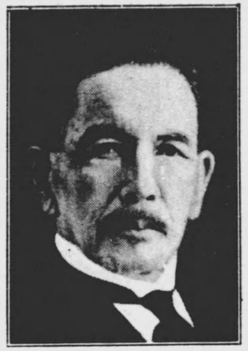
岐阜縣第一區選出、立憲政友會
勳三等

明治元年四月岐阜縣郡上郡八幡町ニ生ル、東京專門學校政治經濟科卒業○讀賣新聞記者、富山日報主筆、九州日報主筆、北陸タイムス主筆、岐阜日日新聞社長トナル、土木會議々員被仰付、歐米ヲ視察ス○當選七回（12 13 14 16 18 19 20）

最上政三

群馬縣第二區選出、立憲民政黨
著述業

明治二十四年八月高崎市ニ生ル、中央大學法律科卒業○政治部記者トシテ萬朝報社ニ入社、日獨戰役ニ第三師團從軍記者トシテ西比利亞ニ派遣セラル、同社政治部長トナル、政治及經濟學研究ノ爲歐米諸國ニ留學ス、著述業ニ從事ス○當選三回（17 19 20）



望月圭介

廣島縣第二區選出
正三位勳一等

慶應三年二月廣島縣豐田郡東野村ニ生ル、英學及政治經濟學ヲ學フ○農商務省參事官ニ任セラル、臨時財政經濟調査會委員、神社制度調査會委員被仰付、又再度遞信大臣、內務大臣ニ任セラル、內閣審議會委員被仰付、支那及朝鮮ヲ視察ス、又浦鹽派遣軍慰問ノ爲西比利亞ニ派遣セラル○永年在職議員トシテ院議表彰セラル○當選十三回（6 8 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20）

森肇

長崎縣第二區選出
正五位勳四等、農

明治六年十月長崎縣北松浦郡御厨村ニ生ル、東京專門學校政治經濟科卒業○小學校教員、長崎新報、長崎日日新聞編輯長、同主筆、長崎新聞總顧問兼主筆トナル、又長崎縣會議員、同參事會員ニ擧ケラル、都市計畫長崎地方委員會委員被仰付、農林參與官ニ任セラレ米穀對策調査委員會臨時委員、米穀統制委員會委員、農村經濟更生中央委員會委員被仰付、長崎教育會理事タリ、鮮滿蒙古支那方面ヲ視察ス○當選五回（15 16 18 19 20）

森　幸太郎

滋賀縣選出、立憲政友會
農

明治二十二年七月滋賀縣東淺井郡竹生村ニ生ル○滋賀縣蠶種同業組合長、同養蠶業組合長、大日本蠶絲會特別議員、近江米同水產組合評議員、郡農會長、縣農會評議員、帝國農會代議員、縣役員、土地貸貸價格調查委員、經濟振興調查委員、土地收用委員、主要農產物品種改良統制委員等トナル、又村會議員、縣會議員、同參事會員ニ選ハル、多年蠶種絲製造販賣業ヲ營ム、帝國水產會代議員、縣養蠶組合聯合會長、大日本蠶絲會特別議員○當選二回（1920）

森　榮藏

奈良縣選出、立憲政友會
會社重役

明治六年十月奈良縣吉野郡大淀村ニ生ル○吉野郡會議員、同參事會員、奈良縣會議員ニ選ハル、所得稅調查委員、大淀村長トナル、又株式會社吉野鐵道監查役、同大和鐵道、同南和鐵道各取締役、吉野製藥株式會社取締役社長、株式會社森組取締役タリ○當選一回（20）

森田福市

廣島縣第三區選出、
勤四等、會社重役

明治二十三年六月廣島縣神石郡牧村ニ生ル、日本大學法科ニ學フ○廣島市會議員、同副議長ニ擧ケラル、貴族院議員（多額）ニ勅任セラル、森田工業株式會社外十數會社重役トナル、現ニ廣島商業會議所會頭、社團法人廣島發明協會長、廣島縣下商工團體聯合會長、廣島水產、日東炭業、日東鐵業汽船各株式會社取締役社長、早山石油株式會社取締役タリ、列國議會同盟會議並萬國議院商事會議ニ參列シ歐米各國ヲ視察ス○當選二回（1820）

森田重次郎

青森縣第一區選出、立憲民政黨
辯護士

明治二十三年五月青森縣上北郡浦野館村ニ生ル○教育科中等教員ヲ免許セラル、辯護士試驗ニ合格ス、曩ニ青森縣上北郡木々内、天間館各尋常高等小學校訓導、木々内尋常高等小學校訓導兼校長、東京市東盛尋常小學校訓導、上北郡城内尋常高等小學校訓導兼校長タリ、現ニ辯護士ノ業務ニ從事ス○當選一回（20）

森下國雄

栃木縣第二區選出、立憲民政黨

著述業

明治二十九年六月栃木縣安蘇郡野上村ニ生ル、早稲田大學政治科卒業後歐米ニ留學ス○野州新聞主筆、同社取締役タリ、著述業ニ從事ス、屢〻南北支那ヲ視察ス○當選二回(1920)

守屋榮夫

宮城縣第一區選出

從四位勳三等、辯護士

明治十七年十一月宮城縣遠田郡富永村ニ生ル、東京帝國大學法科大學獨法科卒業○千葉縣、愛知縣各理事官、內務省監察官兼內務省參事官、地方局府縣課長、朝鮮總督祕書官、同府參事官、總督官房祕書課長、朝鮮總督府庶務部長、社會局部長ニ歷任シ、社會部長等ニ補セラル、又農林政務次官ニ被任米穀統制委員會、農村經濟更生中央委員會、關稅調査會、馬政調査會、輸出生絲販賣統制調査會、米穀對策調査會、勞働保險調査會、東北振興調査會、社會保健調査會、東北興業株式會社設立各委員被仰付、歐米各國ヘ出張ス、瑞西國「ジュネーブ」ニ開催第七回國際勞働總會ニ政府代表委員被仰付、現ニ海軍經理學校講師、海外移住組合聯合會監事、中央朝鮮協會理事、日本青年團參與、中央教化團體聯合會參與、大東文化協會理事タリ、健康保險調査會委員被仰付○當選五回(1617181920)

盛島明長

沖繩縣選出、立憲政友會

醫

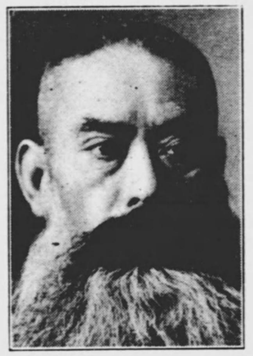
明治十三年十二月沖繩縣ニ生ル、長崎醫學專門學校卒業○小學校訓導ヲ命セラル、後醫術ヲ開業ス、屢〻沖繩縣會議員ニ當選、副議長、議長ニ擧ケラル、又宮古郡醫師會長、同砂糖同業組合長タリ○當選二回(1920)

粟山博

福島縣第一區選出、立憲民政黨

正五位、著述業

明治十七年十月福島縣安積郡富久山町ニ生ル、早稲田大學政治經濟科卒業後米國州立加州大學及「ノースカロライナ」大學院卒業「マスター・オブ・アーツ」ノ學位ヲ受ク○海軍參與官ニ被任、兵役義務者及癈兵待遇審議會委員、石油業委員會委員被仰付、鮮滿蒙古方面ヲ視察ス○當選六回(14151617192 0)



百瀬渡

長野縣第四區選出、立憲民政黨
勳四等、新聞社長

明治七年二月長野縣東筑摩郡中山村ニ生ル○信濃毎日新聞、信濃自由新聞、信濃日報各記者トナル、日露戰役ニ從軍ス、東筑摩郡會議員、同參事會員、長野縣會議員、同參事會員ニ選ハル、信濃日報社々長タリ、長野縣種畜審査委員、同道路調査會委員、同教育調査會委員、同稅制調査會委員、同蠶絲業調査會委員等ヲ囑託セラル○當選四回（17 18 19 20）

世耕弘一

和歌山縣第二區選出、立憲政友會
勳四等、大學教授

明治二十六年三月和歌山縣東牟婁郡敷屋村ニ生ル、日本大學法文學部法律科卒業後、同大學海外研究員トシテ獨逸國ニ留學ス「獨逸文法竝文體論」其他數種ノ著書アリ○文部省ヨリ歐洲各國宗教制度調査委員ヲ囑託セラル、又東京市知識階級就職委員會委員ヲ命セラル、現ニ日本大學教授ニシテ校友課長、學生主事、普通部總務兼顧問ヲ兼ヌ○當選二回（18 20）

須永好

群馬縣第一區選出、社會大衆黨
農

明治二十七年六月群馬縣新田郡强戸村ニ生ル○强戸村會議員ニ選ハル、又有限責任强戸信用購買販賣利用組合理事組合長トナル○當選一回（20）

砂田重政

愛媛縣第三區選出、立憲政友會
正五位勳三等、辯護士

明治十七年五月愛媛縣越智郡日吉村ニ生ル、中央大學卒業○判檢事登用試驗ニ合格、司法官試補ヲ命セラレ、後辯護士トナル、都市計畫中央委員會委員被仰付、又農林參與官、農林政務次官ニ任セラレ、蠶絲委員會委員、肥料調査會委員、人口食糧問題調査會臨時委員、小作調査會委員、米穀調査會委員、米穀委員會委員、關稅調査會委員、米穀對策調査會委員、海外拓殖委員會委員、重要肥料業委員會委員被仰付○當選八回（13 14 15 16 17 18 19 20）

助川啓四郎

福島縣第二區選出、立憲政友會
勳四等、官吏

明治二十年八月福島縣田村郡船引町ニ生ル、早稻田大學專門部政治經濟科卒業「米穀問題解決方策」「農村問題對策」「全面的綜合農村對策」等ノ著書アリ○有限責任購買組合早稻田消費組合理事トナル、又片曾根實業公民學校長、船引町長、福島縣會議員ニ擧ケラル、片曾根村長、片曾根青年訓練所主事、福島縣補習教育會長、有限責任常葉煙草肥料購買組合長トナル、片曾根村有限責任船引繭市場販賣利用組合長タリ、農村之青年社ヲ起シ月刊雜誌「農村之青年」ヲ刊行ス、福島新聞社相談役、護國共濟組合理事タリ、農林省經濟更生部參與、東北振興電力株式會社設立委員被仰付、現ニ農林參與官タリ、農村經濟更生中央委員會委員ヲ命セラル○當選四回（17 18 19 20）

末松偕一郎

福岡縣第四區選出、立憲民政黨
從三位勳二等、辯護士

明治八年六月福岡縣築上郡友枝村ニ生ル、東京帝國大學法科大學獨逸法科卒業「行政法」「自治制大意」「市制町村制正義」「地方自治制要義」ノ著書アリ○靜岡縣參事官、福岡縣事務官、內務書記官、山梨縣警察部長、法制局參事官兼行政裁判所評定官、臺灣總督府財務局長、同內務局長、德島、滋賀、茨城、廣島各縣知事ニ歷任ス、又明治大學、拓殖大學各講師、清國政府自治局顧問、奉天法制學堂教授トナル、社會事業調査會委員被仰付、鐵道政務次官ニ被任、九州齒科醫學專門學校理事長タリ、資源審議會委員被仰付、歐米各國、英、蘭領印度、馬來、比律賓諸島ヲ視察ス○伊國「サン・モリース」三等勳章ヲ贈ラル○當選五回（16 17 18 19 20）

杉浦武雄

愛知縣第五區選出、東方會
正五位勳四等

明治二十三年五月愛知縣渥美郡二川町ニ生ル、東京帝國大學法科大學獨法科卒業○司法官試補ヲ被命、判事ニ被任、前橋地方裁判所兼區裁判所判事ニ被補、又朝鮮總督府判事ニ被任京城地方法院判事、京城覆審法院判事ニ被補、後辯護士ヲ開業ス、社會事業調査委員ヲ囑託セラル、臨時電氣事業調査會委員被仰付、拓務參與官ニ被任、阿片委員會委員被仰付○當選五回（15 16 17 19 20）

杉山元治郎

大阪府第五區選出、社會大衆黨
勳四等、著述業、齒科醫

明治十八年十一月大阪府泉南郡北中通村ニ生ル、府立農學校及「東北學院神學部別科卒業「農村經營の理想」「農村經營の實際」「小作爭議の實際」「農民組合の理論と實際」「農村教化の研究」其他數種ノ著アリ○齒科醫師試驗ニ合格、齒科醫師ヲ開業ス、同志社大學文學部社會事業科講師トナル、日本農民組合ヲ創立シ組合長トナル、現ニ同組合中央委員長タリ、日本農民福音學校ヲ創立シ校長、恩賜財團濟生會大阪府委員、財團法人同潤會東北農山漁村住宅改善委員、購買組合共益社專務理事、大阪市四貫島セツツルメント理事、大阪市ライトハウス監事タリ○當選三回（18 19 20）

鈴木憲太郎

宮崎縣選出、立憲民政黨
正八位、會社重役

明治十五年九月延岡市ニ生ル、明治大學法律科卒業○陸軍三等主計ニ任セラル、岡富村會議員、宮崎縣會議員、同參事會員、同副議長、東臼杵郡畜産組合長、同郡農會長ニ擧ケラル、現ニ名譽職延岡市長ニシテ宮崎縣農會長、延岡電氣株式會社、神都電氣興業株式會社各取締役、九州送電株式會社監査役タリ、林野整備調査會委員ヲ囑託セラル○當選三回（16 17 20）

社會大衆黨

鈴木文治

東京府第六區選出、社會大衆黨
著述業

明治十八年九月宮城縣栗原郡金成町ニ生ル、東京帝國大學法學部政治科卒業「國際勞働運動」「日本の勞働問題」「農村問題講話」等ノ著書アリ○株式會社秀英社ニ入社、後東京朝日新聞記者、統一基督教弘道會幹事、勞働組合「友愛會」ヲ創立シ其會長、勞働教育協會ヲ創立シ其理事長、日本勞働學校ヲ創立其校長トナル、國際勞働總會日本勞働代表ニ任セラルヽコト四度、帝國經濟會議々員被仰付、又國際勞働協會、國際聯盟協會、太平洋問題調査會、東京市政調査會各評議員、中央職業紹介委員トナル、日本勞働組合會議顧問、亞細亞勞働會議々長、世界平和會議顧問、國際勞働法制委員會顧問、國際俸給生活者委員會委員、內外社會問題調査所ヲ創立シ其社長タリ、職業紹介委員會委員被仰付○當選三回（16 19 20）

鈴木正吾

愛知縣第五區選出、國民同盟
勳四等、著述業

明治二十三年六月愛知縣寶飯郡御津町ニ生ル、明治大學政治科卒業○雜誌大觀編輯長トナル、派遣軍等慰問ノ爲滿洲及支那ニ派遣セラル、又歐米各國ヲ視察ス○當選三回（18 19 20）

鈴木英雄

神奈川縣第三區選出、立憲政友會
從四位勳三等、漁業

明治十年十一月神奈川縣足柄下郡小田原町ニ生ル、東京帝國大學法科大學政治科卒業○文官高等試驗ニ合格ス、農商務屬、水產局書記官、水產講習所囑託講師、農商務書記官兼農商務省參事官、特許局長ニ歷任ス、臨時條約改正調査委員會委員被仰付、日本漁網船具株式會社々長、共同漁業株式會社、日本工船漁業株式會社各監査役タリ、鐵道運賃審議會委員、製鐵事業評價審査委員會委員被仰付○當選四回（16 17 18 20）

書記官長及書記官履歷

書記官長　田口弼一

正四位勳二等、高等官一等

明治十五年十月大分縣宇佐郡糸口村ニ生ル、東京帝國大學法科大學法律學科卒業○大分縣大分郡長、大分縣理事官、衆議院書記官長ニ任セラル、曩ニ内務省參事官、臨時議院建築局事務官、同書記官、行政裁判所評定官ニ兼任セリ、又大禮使典儀官、衆議院議員選擧革正審議會各國ニ再度出張ヲ命セラル

書記官　大木　操

從四位勳四等、高等官三等（勅任官待遇）

議事課長兼調査部第一課長

明治二十四年十月東京市ニ生ル、東京帝國大學法科大學法律學科卒業○副檢査官兼會計檢査院書記官ヲ經テ大正十二年九月衆議院書記官ニ任セラル、曩ニ臨時議院建築局書記官、營繕管財局書記官ニ兼任セラル、昭和七年十二月行政裁判所評定官ニ兼任セラル、議院制度調査會幹事被仰付、樺太、亞港、臺灣、香港、比律賓、蘭領東印度、英領海峽植民地、濠洲、支那、滿洲及三度歐米各國ヘ出張ヲ命セラル、現ニ議事課長兼調査部第一課長タリ

（田、大）

書記官 中御門經民

正四位勳四等、男爵、高等官三等（勅任官待遇）
委員課長兼調査部第二課長

明治二十六年五月東京市ニ生ル、京都帝國大學政治經濟科卒業○海軍省事務官兼拓殖局書記官ニ任セラレ大正十一年六月衆議院書記官兼拓殖局書記官ニ任セラル、後拓務書記官ニ兼任セラル、議院制度調査會幹事被仰付、臺灣、支那、香港、比律賓、英領北ボルネオ、蘭領東印度諸島、英領海峽植民地、朝鮮及再度歐米各國ヘ出張ヲ命セラル、現ニ委員課長兼調査部第二課長議事課兼務タリ

書記官 大池 眞

正五位勳五等、高等官三等
庶務課長兼會計課長、調査部第三課長

明治二十九年一月長野縣東筑摩郡山形村ニ生ル、東京帝國大學法學部政治科卒業○製鐵所副參事ニ任セラル、大正十四年四月衆議院書記官兼商工事務官ニ任セラレ、昭和七年二月營繕管財局書記官ニ兼任セラル、曩ニ臺灣、朝鮮、支那、南洋群島、比律賓、香港及再度歐米各國ヘ出張ヲ命セラル、現ニ庶務課長兼會計課長、調査部第三課長、速記課議事課委員課兼務タリ

書記官（兼）安心院 功一

從五位勳五等、高等官三等
議事課勤務、委員課兼務

明治二十二年七月大分縣日田郡夜明村ニ生ル、大分縣師範學校卒業○試驗檢定ニ依リ地理科、歷史科中等教員免許狀ヲ受ク、文官高等試驗ニ合格ス、曩ニ大分縣師範學校教諭、福岡縣中學校明善校教諭、私立成城中學校教員ニ歷任セリ、水產講習所教授兼農林事務官ニ任セラル、昭和五年十二月衆議院書記官ニ兼任セラル、現ニ議事課勤務委員課兼務タリ

書記官 西澤哲四郎

正六位、高等官四等
祕書課長兼調査部第四課長

明治三十六年七月京都市ニ生ル、東京帝國大學法學部法律科卒業○地方事務官ニ任セラレ鳥取縣內務部農務課長、同庶務課長、兼知事官房主事ヲ命セラル、昭和七年七月衆議院書記官ニ任セラレ、社會局事務官ニ兼任セラル、朝鮮、關東州、滿洲國、臺灣、南洋群島、比律賓、香港及歐米各國ヘ出張ヲ命セラル、現ニ祕書課長兼調査部第四課長、議事課委員課兼務タリ

書記官渡邊捨雄

從六位、高等官五等
警務課長兼議事課、調査部第三課勤務

明治三十五年十一月廣島市ニ生ル、東京帝國大學法學部法律科卒業○福岡縣屬兼警部、地方事務官ニ任セラレ、山梨縣、石川縣ニ勤務、内務部地方課長、警察部建築工場課長、學務部學務課長兼社會教育課長ヲ命セラル、昭和十二年六月衆議院書記官ニ任セラル、現ニ警務課長兼議事課、調査部第三課勤務タリ

書記官鈴木隆夫

從七位、高等官七等
速記課長兼議事課、調査部第一課勤務

明治三十七年二月福島市ニ生ル、東北帝國大學法文學部法律科卒業○警視廳巡査、衆議院守衛副長兼衆議院屬ヲ經テ昭和十二年六月衆議院書記官ニ任セラル、現ニ速記課長兼議事課、調査部第一課勤務タリ

議員選擧區別氏名

東京府

府縣	選擧區	氏名	黨派
東京府	一	河野密	社民
		原玉重	民
		高橋義次郎	民
		道家齊一郎	政
		本田義成	政
	二	安部磯雄	社
		鳩山一郎	政
		中島彌團次	民
		駒井重次	民
	三	長野高一	民
		賴母木桂吉	民
		淺沼稻次郎	社
		田川大吉郎	政
		安藤正純	政
	四	阿部茂夫	社民
		眞瀧鍋儀十	政
		朴澤七郎	社
		春生琴久	社

議員選擧區別氏名

京都府

五
- 加藤勘十 民
- 斯波貞吉 民
- 三輪壽壯 社
- 牧野賤男 政

六
- 鈴木文治 社
- 前田米藏 政
- 山田清 民
- 中村梅吉 民
- 田中源 政

七
- 八並武治 民
- 中村高一 社
- 津雲國利 政

（水谷長三郎 社

大阪府

一
- 中村三之丞 民
- 福田關次郎 民
- 西村金三郎 民
- 江羅直三郎 政

二
- 川崎末五郎 民
- 池本甚四郎 民
- 田中好 政

三
- 芦田均 政
- 村上國吉 民
- 津原武 民

一
- 田万清臣 社
- 板野友造 政
- 一松定吉 民

二
- 紫安新九郎 民
- 山本芳治 政
- 井上良次 社

三
- 塚本重藏 社
- 池崎忠孝 民
- 內藤正剛 民
- 上田孝吉 政

四
- 川村保太郎 社
- 西尾末廣 社
- 中山福藏 民
- 本田彌市郎 民

五
- 杉山元治郎 社
- 勝田永吉 民
- 田中万逸 民
- 曾和義弌 政

神奈川縣

六
- 井阪豊光 民
- 松田竹千代 民
- 南鼎三 政

一
- 岡崎憲 社
- 飯田助夫 民
- 野方次郎 政

二
- 小泉又次郎 民
- 片山哲 社
- 小串清一 政
- 野口喜一 政

三
- 河野一郎 政
- 平川松太郎 民
- 鈴木英雄 政
- 岡崎久次郎 民

兵庫縣

一
- 河上丈太郎 社
- 中井一夫 政
- 永江一夫 社
- 野田文一郎 民
- 濱野徹太郎 民

二
- 前田房之助 民
- 米窪滿亮 社
- 小林房之助 民
- 立川平 政

三
- 小林絹治 政
- 河合義一 社
- 田中源三郎 政

四
- 清瀨一郎 國
- 田中武雄 民

長崎縣

一
- 原惣兵衛 政
- 小畑虎之助 民

五
- 齋藤隆夫 民
- 若宮貞夫 政
- 山川賴三郎 政

一
- 馬場元治 東
- 西岡竹次郎 政
- 倉成庄八郎 政
- 中村不二男 民
- 太田理一 政

二
- 牧山耕藏 民
- 森肇 民
- 川副隆 民

新潟縣

一
- 佐保畢雄 政
- 北昤吉 民
- 山本悌二郎 政
- 松井郡治 民

二
- 高岡大輔 國
- 佐藤與一 民
- 松木弘 政
- 小柳牧衛 民

三
- 三宅正一 社
- 大竹貫一 國
- 加藤知正 政
- 今成留之助 民
- 佐藤謙之輔 民

埼玉縣

四
- 武田德三郎 政
- 增田義一 民
- 川合直次 民

一
- 松永東 民
- 宮崎一 政
- 高橋泰雄 政
- 松永義雄 社

二
- 高橋守平 民
- 横川重次 政
- 石坂養平 政
- 坂本宗太郎 政

三
- 野中徹也 國
- 出井兵吉 政
- 古島義英 民

群馬縣

一
- 中島知久平 政
- 青木精一 社
- 須永好 社
- 飯塚春太郎 民
- 清水留三郎 民

二
- 篠原義政 政
- 最上政三 民
- 木檜三四郎 民
- 木暮武太夫 政

千葉縣

一
- 多田滿長 民
- 篠原陸朗 民
- 成島勇 民
- 川島正次郎 政

茨城縣

二
- 今井健彥 政
- 吉植庄亮 政
- 宇賀四郎 民

三
- 岩瀨亮 政
- 小高長三郎 政
- 土屋清三郎 民
- 池田清秋 民

一
- 內田信也 民
- 中崎俊秀 民
- 豐田豐吉 民
- 葉梨新五郎 政

二
- 中井川浩 民
- 川崎巳之太郎 政
- 大內竹之助 政

栃木縣

三
- 風見章 政
- 赤城宗德 政
- 佐藤洋之助 政
- 飯村五郎 政

一
- 船田中 政
- 高田耘平 民
- 江原三郎 政
- 岡田喜久治 民
- 坪山德彌 政

二
- 森下國雄 民
- 松村光三 政
- 小平重吉 政
- 木村淺七 民

奈良縣

江藤源九郎 政
福井甚三 政
森榮藏 政
松尾四郎 民
八木逸郎 民

三重縣

一
- 加藤久米四郎 政
- 松田正一 民
- 片岡恒一 民
- 川崎克 民
- 馬岡次郎 政

二
- 尾崎行雄 政
- 濱地文平 政
- 長井源 民
- 濱田國松 政

愛知縣

一
塚本三 民
小山松壽 民
服部崎市 民
椎尾辨匡
山崎常吉

二
安藤孝三 政
樋口善右衛門 政
丹下茂十郎 政

三
加藤鯛一 民
瀧正雄
渡邊玉三郎 民

四
大野一造 民
岡本實太郎 民
小笠原三九郎 政

靜岡縣

五
鈴木正吾 國
大口喜六 政
杉浦武雄 東

一
山田順策 民
深澤豐太郎 政
山口忠五郎 政
平野光雄 民
宮本雄一郎 政

二
山崎釼二 社
鹽川正藏 政
高木粂太郎 民
春名成章

太田正孝 政
津倉亀作 民

山梨縣

三
倉元要一 政
坂下仙一郎 民

田邊七六 政
平野力三
笠井重治
堀內良平 民
今井新造

滋賀縣

堤康次郎 民
青木亮貫 民
森幸太郎 政
田中養達 東
服部岩吉 政

岐阜縣

一
清田寬 民
匹田銳吉 政
大野伴睦 政

二
木村作次郎 政
伊藤東一郎 民
三田村武夫 東

三
牧野良三 政
古屋慶隆 民
加藤鐐造 社

長野縣

一
松本忠雄 民
丸山辨三郎 政
田中邦治 民
小山邦太郎 民

議員選擧區別氏名

二
- 小山亮 政
- 羽田武嗣郎 政

三
- 宮澤胤勇 民
- 北原阿智之助 民
- 中原謹司 社
- 野溝勝 社

四
- 植原悅二郎 政
- 百瀨渡 民
- 田中耕 民

宮城縣

一
- 內ヶ崎作三郎 民
- 菊地養之輔 社
- 庄司一郎 政
- 守屋榮夫 政
- 宮澤清作 政

二
- 村松久義 民
- 小山倉之助 民
- 大石倫治 政

福島縣

一
- 粟山博 民
- 釘本衛雄 民
- 菅野善右衛門 政

二
- 八田宗吉 政
- 仲西三良 民
- 助川啓四郎 政
- 中野寅吉 民
- 林平馬 民

三
- 比佐昌平 民
- 星一 民
- 山田六郎 民

岩手縣

一
- 田子一民 政
- 高橋壽太郎 民
- 八角三郎 政

二
- 泉國三郎 政
- 松川昌藏 政
- 鶴見祐輔 民
- 志賀和多利 政

青森縣

一
- 小笠原八十美 政
- 工藤鐵男 民
- 森田重次郎 民

二
- 小野謙一 東
- 工藤十三雄 政
- 菊池良一 民

山形縣

一
- 木村武雄 東
- 高橋熊次郎 政
- 西方利馬 政
- 佐藤啓 國

二
- 松岡俊三 政
- 熊谷直太 政
- 伊藤五郎 民
- 清水德太郎 民

秋田縣

一
- 町田忠治 民
- 信太儀右衛門 民
- 中田儀直 政
- 中川重春 民

一
- 川俣清音 社

福井縣

二
小山田義孝 政
土田莊助 民

猪野毛利榮 政
添田敬一郎 民
池田七郎兵衛 政
齋藤直橘 民
熊谷五右衛門

石川縣

一
永井柳太郎 民
長谷長次
箸本太吉 政

二
櫻井兵五郎 民
青山憲三 政
喜多壯一郎 民

富山縣

一
高見之通 政
寺島權藏 民
野村嘉六 民

二
卯尾田毅太郎 民
松村謙三 民
土倉宗明 政

鳥取縣

稻田直道 政
山枡儀重 民
三好榮次郎 民
豐田收

島根縣

岡山縣

一
櫻內幸雄 民
原夫次郎 民
高橋圓三郎 政

二
島田俊雄 政
俵孫一 民
沖島鎌三 政

一
久山知之 政
岡田忠彥 政
行吉角治 政
黑田壽男 社
玉野知義

二
小川鄉太郎 民
西村丹治郎 民
犬養健 政
星島二郎 政
小谷節夫 政

廣島縣

一
岸田正記
古田喜三太 民
名川侃市 政
藤田若水 民

二
木原七郎 民
望月圭介
山道襄一 民
肥田琢司 政

三
永山忠則
土屋寬 民
作田高太郎 民
宮澤裕 政
森田福市 政

山口縣

和歌山縣

一
西川貞一 政
青木作雄 東
庄晉太郎 政
安倍寬 政

二
西村茂生 政
窪井義道 政
國光五郎 民
福田悌夫 民
中野治介 政

一
松山常次郎 政
木本主一郎 政
西田郁平 民

二
小山谷藏 民
田淵豐吉 政
世耕弘一 政

德島縣

一
生田和平 政
田村秀吉 民
紅露昭 政

二
眞鍋勝 民
秋田清 民
三木武夫 民

香川縣

一
前川正一 社
藤本捨助 社
宮脇長吉 政

二
三土忠造 政
矢野庄太郎 民
松浦伊平 政

愛媛縣

一
武知勇記 民
松田喜三郎 民
大本貞太郎 政

二
河上哲太 政
小野寅吉 民
村瀨武男 民

三
砂田重政 政
高畠龜太郎 政
村上紋四郎 民

高知縣

一
大石大 東
富田幸次郎 民
長野長廣 民

福岡縣

二
佐竹晴記 社
依光好秋 政
林讓治 政

一
中野正剛 東
松本治一郎 社
簡牛凡夫 政
原口初太郎 政

二
龜井貫一郎 社
田尻生五 政
石井德久次 政
田島勝太郎 民
松尾三藏 民
野田俊作 政

三
山崎達之輔 政
鶴惣市 政
增永元也 政
岡野龍一 民

四
勝正憲 民
末松偕一郎 民
田原春次 社
小池四郎

大分縣

一
金光庸夫 政
一宮房治郎 民
長野綱良 民
小野廉 政

佐賀縣

二
重松重治 民
清瀨規矩雄 政
綾部健太郎 政

一
池田秀雄 民
中野邦一 民
田中亮一 政

二
藤生安太郎 政
一ノ瀨俊民 政
愛野時一郎 民

熊本縣

一
安達謙藏 國
松野鶴平 政
木村正義 政
石坂繁 國

大麻唯男 民

二
伊豆富人 國
三善信房 政
坂田道男 政
小見山七十五郎 政
藏原敏捷 國

宮崎縣

伊東岩男 政
三浦虎雄 東
曾木重貴
鈴木憲太郎 民
陣軍吉

鹿兒島縣

井上知治 政

一
小泉純也 民
松方幸次郎
津崎尚武
藏園三四郎

二
冨吉榮二 社
東郷實 政
寺田市正 政
岩元榮次郎 政

三
永田良吉 政
金井正夫
小林三郎 民

沖繩縣

漢那憲和 民
伊禮肇 國
仲井間宗一 民

北海道

崎山嗣朝	盛島明長	政政
一	山本厚三	民政
	板谷順助	政
	澤田利吉	民民
	一柳仲次郎	民
二	東林坂松	武政
	路	
	東浦幸周太郎	民民
三	大島寅吉	民東
	渡邊泰邦	政
	田代正治	政
四	赤松克麿	民
	手代木隆吉	民
	北勝太郎	民
	岡田春夫	民
	南條德男	政
五	遠山房吉	民
	木下成太郎	政
	東條貞	政
	南雲正朔	民

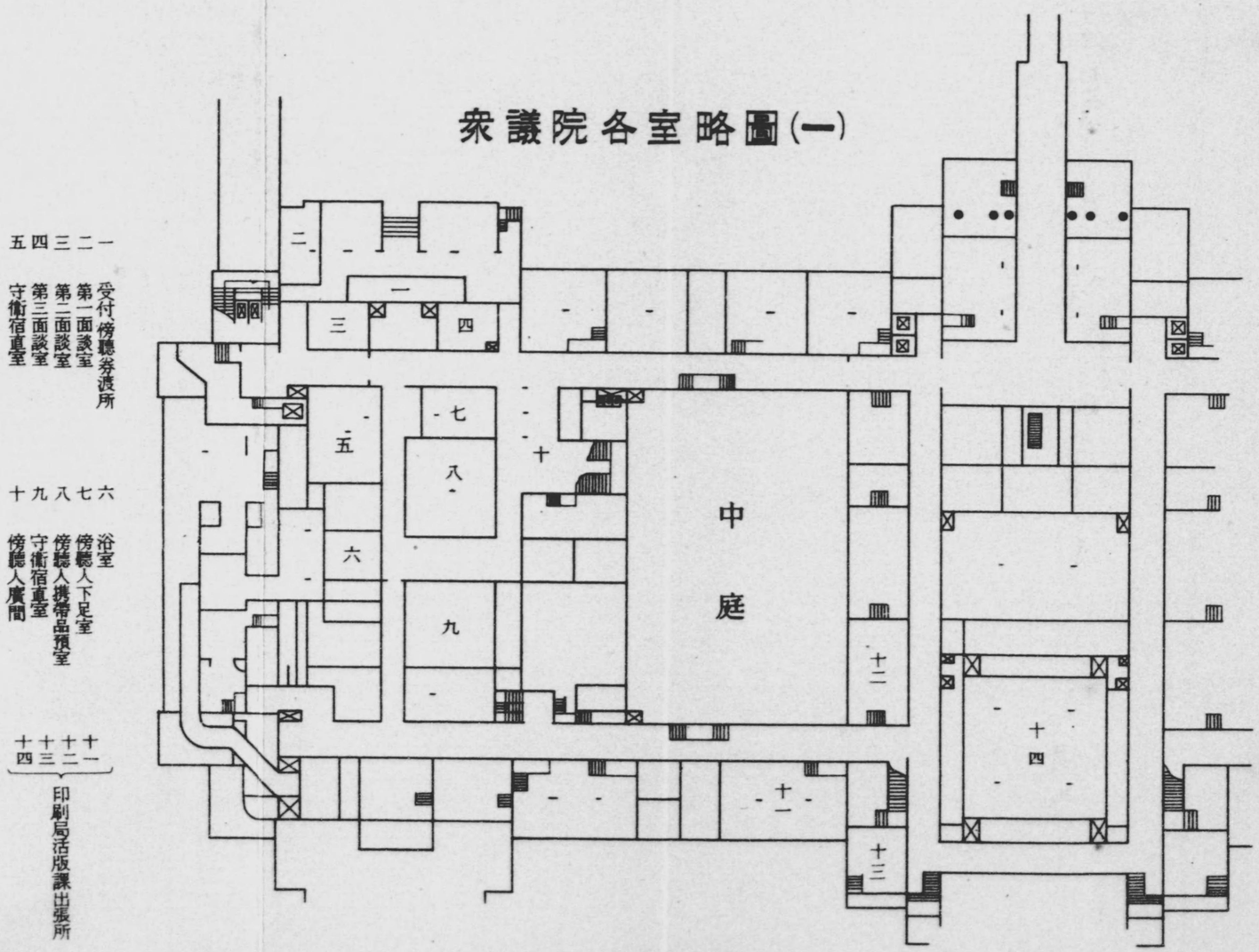
議員所屬黨派府縣別人員表

（昭和十二年七月五日調）

府縣 / 黨派	立憲民政黨	立憲政友會	社會大衆黨	第二控室	國民同盟	東方會	無所屬	計
東京	一一	八	八	四				三一
京都	七	三	一					一一
大阪	八	五	六	一			一	二一
神奈川	四	五	二					一一
兵庫	七	七	四		一			一九
長崎	三	四				一	二	九
新潟	八	四	一		二			一五
埼玉	三	五	一	一	一			一二
群馬	四	三					一	九
千葉	六	五					四	一一
茨城	三	四						一二
栃木	四	五						九
奈良	二	二					二	五
三重	四	四						九
愛知	七	四			一	一	三	一七
静岡	五	六	一				一	一三
山梨	一	一		三				五
滋賀	二	二				一		五
岐阜	三	四	一			一		九
長野	六	三	一	三				一三
宮城	三	三	一				二	八
福島	六	三					一	一一
岩手	二	五						八
青森	三	二						六
山形	二	四			一	一		八
秋田	四	二	一					七
福井	二	二					一	五
石川	三	二					一	六
富山	四	二						六
鳥取	二	一						四
島根	三	三						六
岡山	二	六	一				一	一〇
廣島	六	四					三	一三
山口	一	五					二	九
和歌山	二	三		一				六
徳島	二	二					一	六
香川	一	三	二	二				九
愛媛	五	四						九
高知	二	二						六
福岡	五	六	三				一	一八
大分	三	四						七
佐賀	三	三						六

	計	北海道	沖縄	鹿児島	宮崎	熊本	佐賀	大分	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	和歌山	山口	広島	岡山	島根	鳥取	富山	石川	福井	秋田	山形	青森	岩手	福島	宮城	長野	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	奈良	栃木	茨城	千葉	群馬
一八〇		一〇	二	二	一	一	三	三	五	二	五	一	二	二	一	六	二	三	二	四	三	二	四	二	三	二	六	三	六	三	二	一	五	四	四	二	四	三	三
一七四		六	二	五	一	五	三	四	六	二	四	三	二	三	五	四	六	三	一	二	二	二	二	二	四	二	五	二	三	四	二	一	六	四	四	二	五	四	五
三六				一					三	一		一				一							一					一	一					一					
二〇		一		一	一							一	一	一															三			三		一	一				
一一			一			四																		一										一					
一一		一			一				一	一					一									一	一					一	一			一				
三四		二		三	一				三					一	二	三	一			一		一					二	一						三		二			一
四六六		二〇	五	一二	五	一〇	六	七	一八	六	九	六	六	六	九	一三	一〇	六	四	六	六	五	七	八	六	七	一一	八	一三	九	五	五	一三	一七	九	五	九	一一	一一	九

圖略室各院議衆(一)



一 受付、傍聽券渡所
二 第一面談室
三 第二面談室
四 第三面談室
五 守衛宿直室
六 浴室
七 傍聽人下足室
八 傍聽人携帶品預室
九 守衛宿直室
十 傍聽人廣間
十一 十二 十三 十四 印刷局活版課出張所

階地

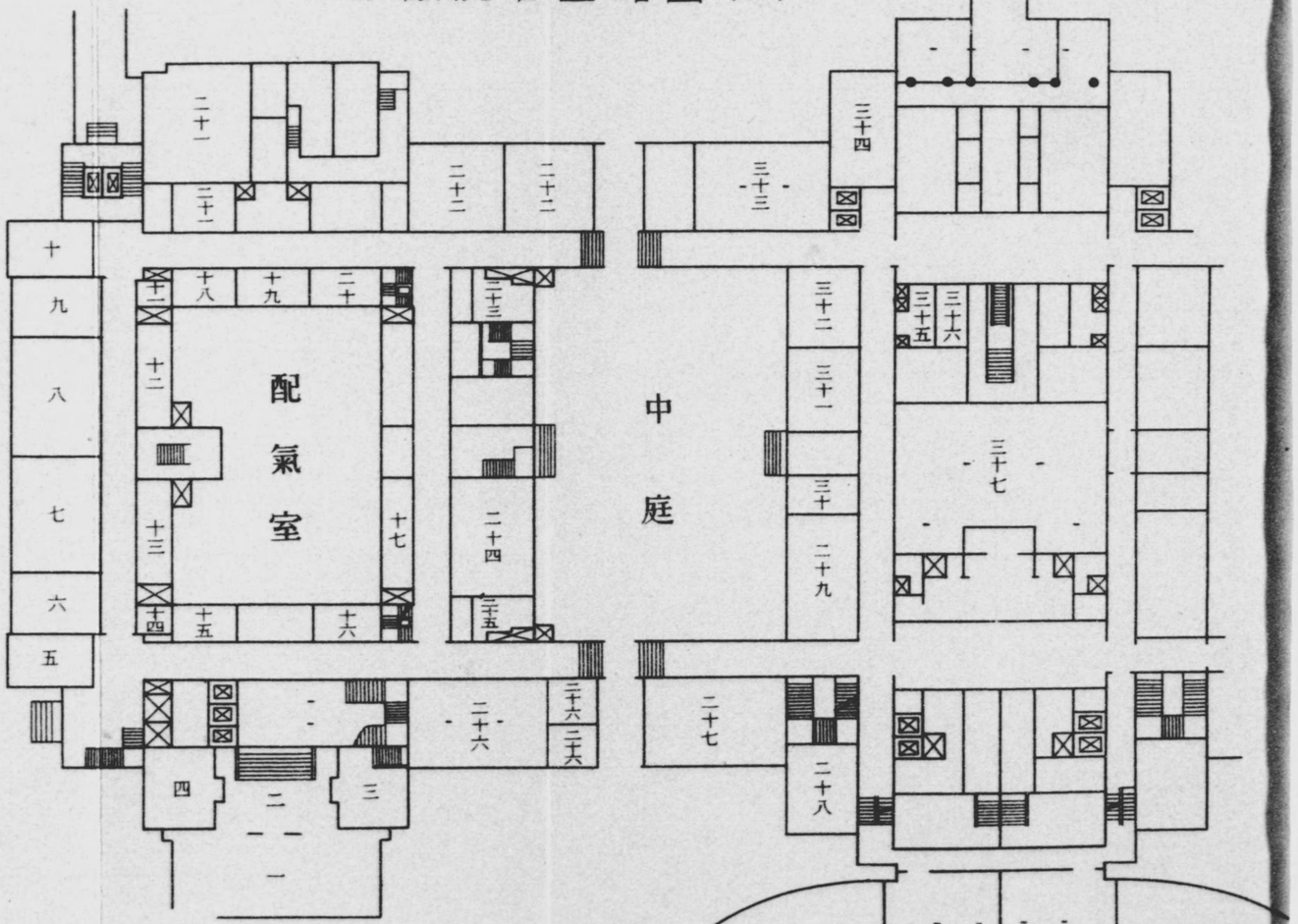
議員所屬黨派府縣別人員表

(明治十二年十月五日調)

黨名	東京	大阪	京都	兵庫	長崎	福岡	秋田	福島	青森
民權黨	一一	十	八	十	三	四	十	四	六
與文會	八	三	五	十	四	三	五	三	五
大衆黨	八	一	六	二	四	一	一	一	
共和會	四	一	一						
同盟				四	一	二	一		
東京會									
無所屬		三	一			一	三		一
指	三五	一二	二五	一〇	一八	一五	一二	一八	一〇

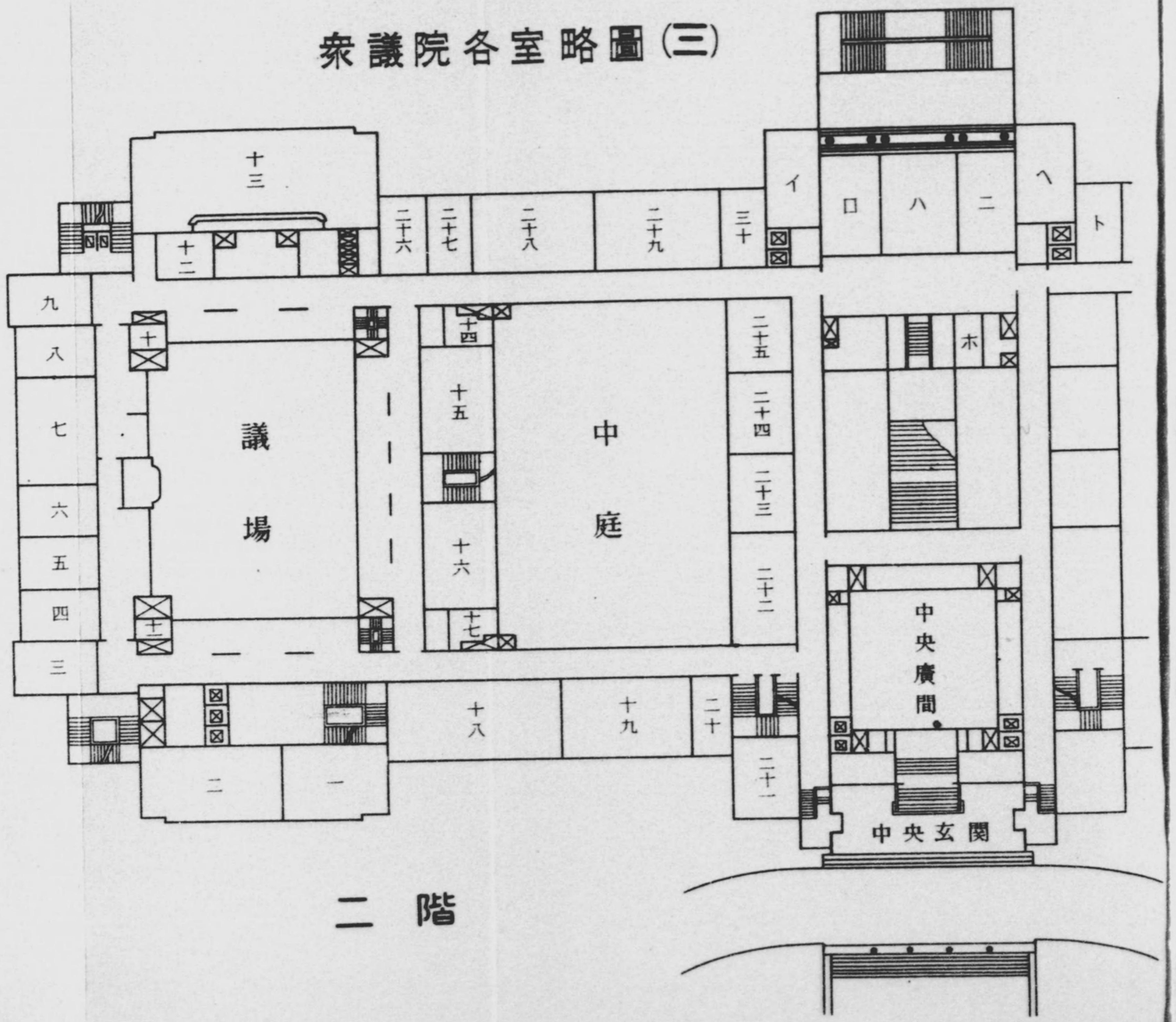
衆議院各室略圖（二）

一 車寄
二 正玄関
三 守衛室
四 受付
五 速記課
六
七
八
九
十
十一 化粧室
十二
十三 議員帽子置場
十四 化粧室
十五
十六
十七
十八
十九
二十 宿直室
二十一 職員食堂
二十二 小使室・湯沸室
二十三
二十四 守衛室
二十五 職員便所
二十六 守衛室
二十七 守衛室
二十八 庶務課（配付）
二十九 庶務課
三十
三十一 郵便電信電話室
三十二
三十三 會計課
三十四 理髪室
三十五
三十六 醫務室
三十七 中央食堂



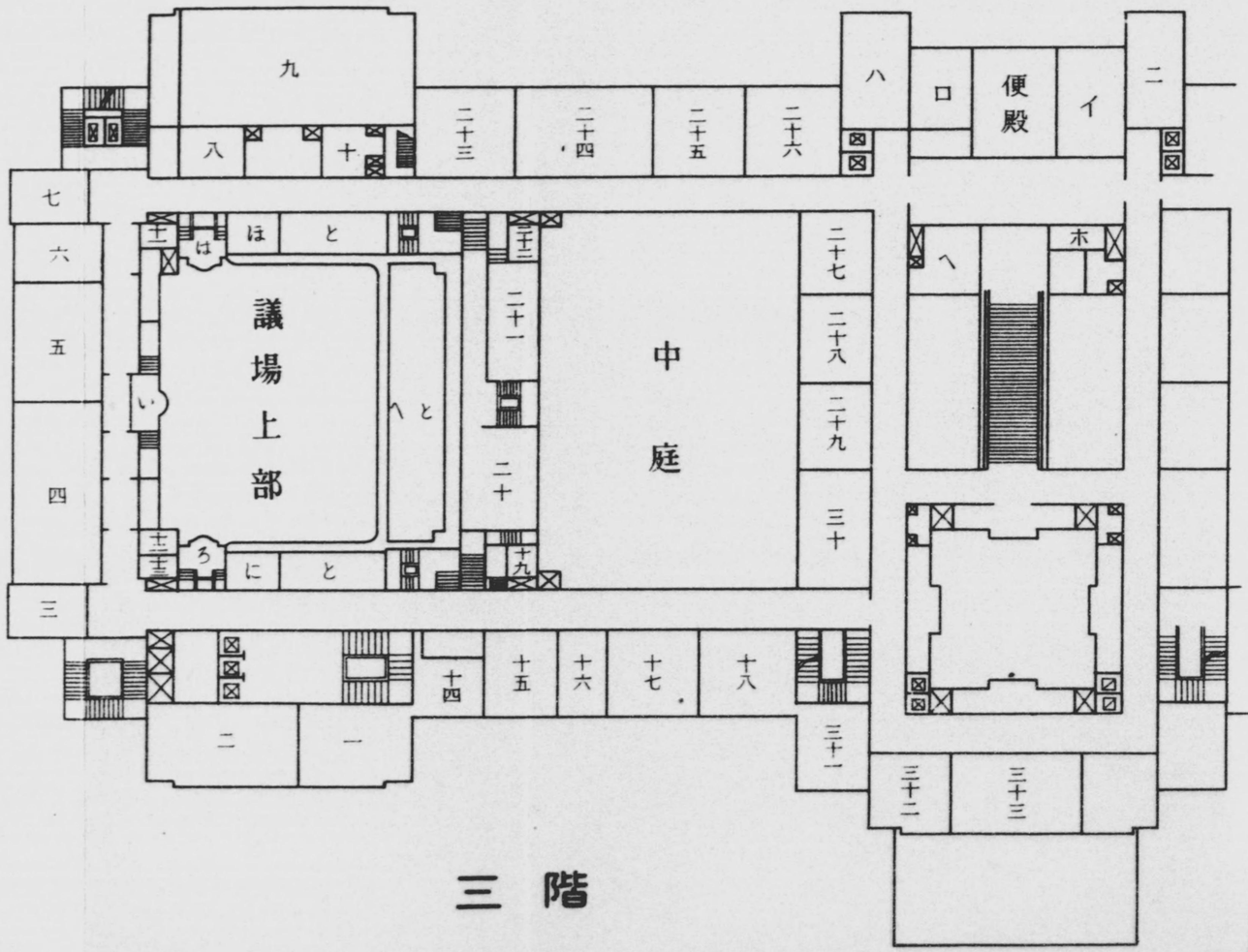
一階

(三) 衆議院各室略圖


議場
中庭
中央廣間
中央玄関
一 秘書課
二 議事課
三 書記官室
四 書記官長室
五 議長及書記官長次室
六 議長室
七 議長應接室
八 副議長室
九 副議長應接室
十 化粧室
十一 化粧室
十二 小憩室
十三 議員食堂
十四 議員便所
十五 議員控室
十六 議員控室
十七 警務課
十八 議員控室
十九 議員控室
二十 議員控室
二十一 議員控室
二十二 議員控室
二十三 議員控室
二十四 議員控室
二十五 政府委員室
二十六 政府委員室
二十七 政府委員室
二十八 政府委員室
二十九 議員控室
イ 内閣附屬應接室
ロ 内閣總理大臣室
ハ 大臣室
ニ 秘書官室
ホ 法制局長官室
ヘ 内閣書記官長室
ト 内閣書記官室

二階

衆議院各室略圖(四)



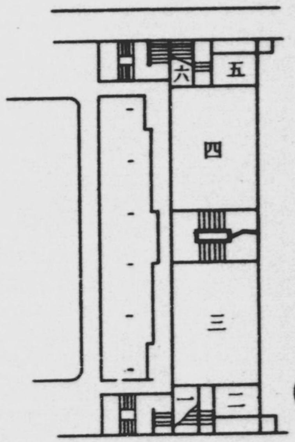
一 議員控室
二 委員室(建議委員室)
三 委員課(請願係)
四 委員室(決算委員室)
五
六 議員控室
七
八 政府委員室
九 委員室(豫算委員室)
十 喫茶室
十一 化粧室
十二
十三

十二 湯沸場
十四 議員控室
十五
十六 委員室
十七
十八 傍聴人便所
十九
二十 傍聴人控室
二十一
二十二 委員室(懲罰委員室)
二十三 委員室(請願委員室)
二十四

二十五 委員室
二十六
二十七
二十八
二十九
三十 調査部
三十一 議員控室
三十二 兩院協議室
三十三 御座所
い 皇族席
ろ 貴賓席
は

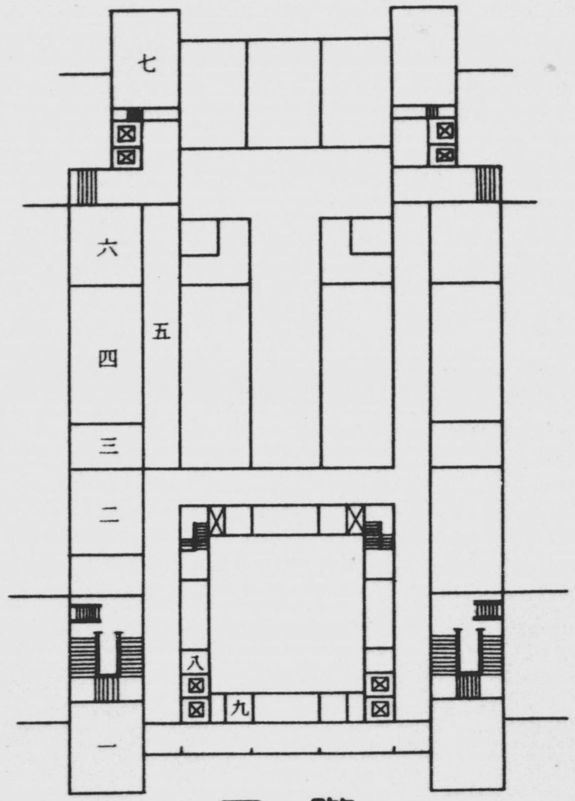
に 貴族院議員席
ほ 官吏席
へ 記者席
と 公衆席
イ 御化粧室
ロ 皇族室
ハ 貴賓室
ニ 供奉員室
ホ 便殿附属室
ヘ 貴賓化粧室及便所

衆議院各室略圖(五)



中三階

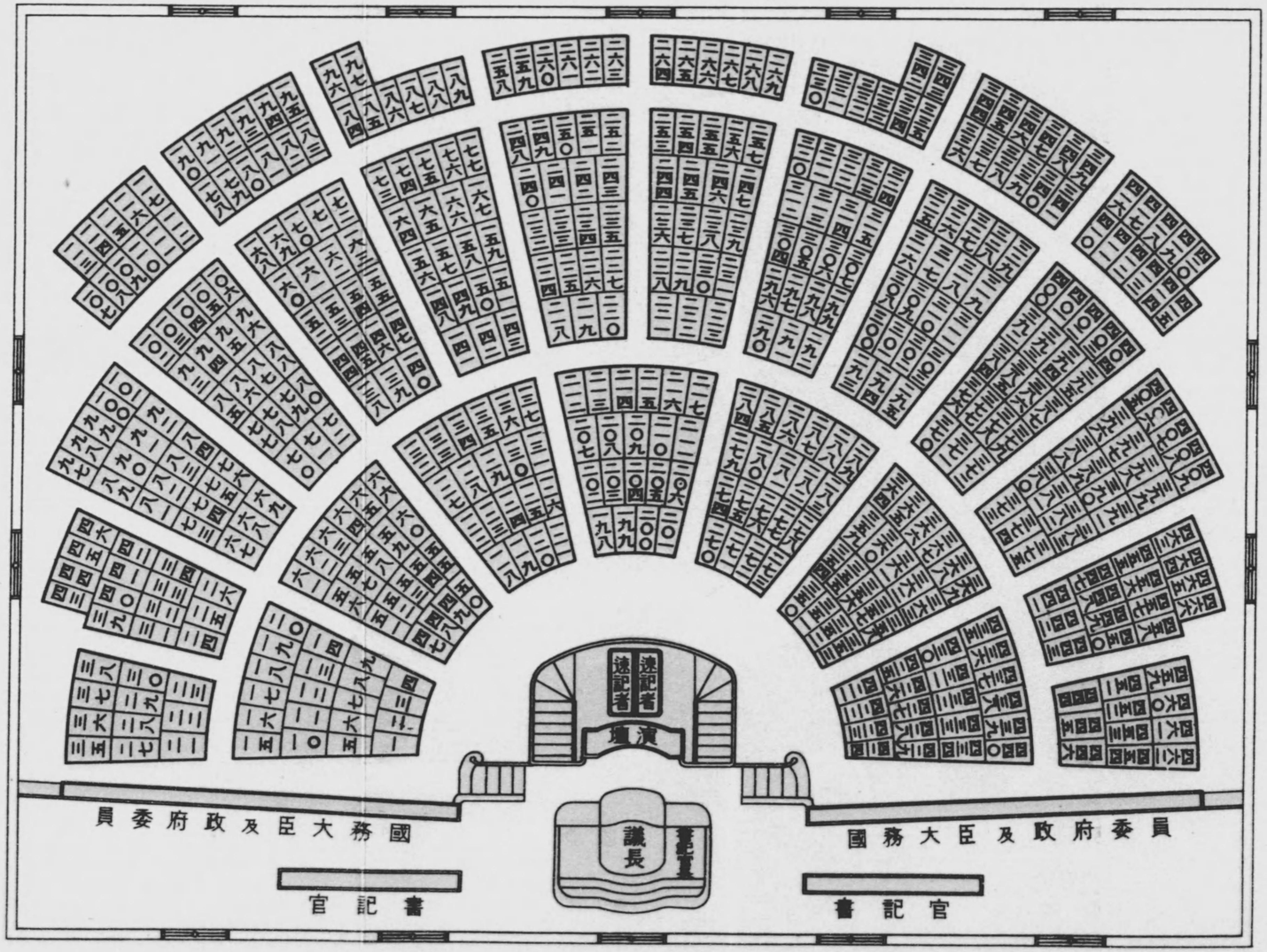
一 記者便所
二 五 議員便所
三 四 新聞記者室



四階

一 二 書庫
三 圖書係室
四 圖書閱覽室
五 新聞雜誌閱覽室
六 七 書庫
八 化粧室
九 湯沸場

議場略圖



2603
20
33915

昭和十二年七月十八日印刷
昭和十二年七月二十一日發行

衆議院事務局

東京市芝區愛宕町二丁目十四番地
印刷者　渡邊丑之助

2603
20

33915